

鹿児島大学総合研究博物館年報

Annual Report of the Kagoshima University Museum

No. 6

2 0 0 6

鹿児島大学総合研究博物館

The Kagoshima University Museum

鹿児島大学総合研究博物館年報
Annual Report of the Kagoshima University Museum
No. 6

2 0 0 6



鹿児島大学総合研究博物館
The Kagoshima University Museum

年報No. 6 目 次

1	総合研究博物館の組織－2006年度－	福元しげ子	1		
	館長 研究部 運営委員 兼務教員 学外協力研究者				
2	総合研究博物館規則等	大木公彦	4		
3	部会	福元しげ子	10		
4	2006年度の企画事業概要	橋本達也	10		
5	2006度の企画事業				
1.	研究交流会 (1) 第11回「天然記念物という文化財」	大木公彦	12		
2.	市民講座 (1) 第10回「貝化石からみた日本列島の縄文の海」 - 大木公彦	12			
	(2) 第11回「活火山 霧島」	大木公彦	13		
3.	公開講座 (1) 第6回自然体験ツアー 「鹿児島湾海藻ウォッキング —水の中のゆたかな森へ—」	落合雪野	13		
	(2) 第6回公開講座「作ってみよう！海藻おしば」 - 落合雪野	15			
4.	特別展 第6回「発掘！鹿児島の古墳時代」	橋本達也	16		
	特別展アンケート結果	福元しげ子	17		
5.	その他の活動				
	特別講演会「Jaws ! False teeth and gums-seeking the earliest fossil vertebrates especially sharks」	本村浩之	21		
	特別講演会「フタバスズキリュウと海生は虫類」	大木公彦	22		
	第3回学内コンサート「薩摩琵琶の夕べ」	大木公彦	22		
	神領10号墳発掘調査現地説明会	橋本達也	23		
6	常設展示室	佐々木恵子	24		
(1)	入館者数	(2) 利用・活用状況	(3) 室内環境	(4) アンケート	
(5)	ボランティア活動	(6) 課題	(7) 国登録有形文化財に登録		
7	地域貢献事業「鹿児島フィールドミュージアム」	大木公彦	32		
8	教育活動				
(1)	共通教育「博物館へのいざない」	橋本達也	32		
(2)	共通教育「学芸員の業務と役割－文化のプロデューサー」	大木公彦	33		
(3)	博物館実習	大木公彦・落合雪野・本村浩之・橋本達也	34		
(4)	インターンシップ	本村浩之	34		
9	出版・広報	橋本達也	35		
10	ボランティア活動	福元しげ子・橋本達也・本村浩之	35		
11	標本管理活動				
(1)	植物標本室	落合雪野	36		
(2)	脊椎動物標本の利用状況	本村浩之	38		
(3)	そのほかの資料の活用状況	福元しげ子	38		
(4)	水産学部甲殻類標本	福元しげ子	39		
(5)	プレカンブリアン試錐コア	大木公彦	39		
12	2006年度 専任教員の活動業績				
	大木公彦		40		
	落合雪野		42		
	橋本達也		43		
	本村浩之		46		
	福元しげ子		48		
13	常設展示室 展示品目録－2006年度－		49		
14	2006年度 ポスター		58		

1 総合研究博物館の組織—2006年度—

館 長 大木 公彦 教 授 総合研究博物館

研究部

資料研究系	大木 公彦 教 授	地質・古生物学
	橋本 達也 助教授	考古学
	福元しげ子 助 手	博物館資料学
分析研究系	落合 雪野 助教授	民族植物学、東南アジア地域研究
	本村 浩之 助教授	魚類分類学
事務補佐員	永吉ルミ子	
事務補佐員	佐々木恵子	
技術補佐員	岩井 雄次	
科研費研究支援員	藤井 大祐 (2006年9月より)	
事 務 局	研究協力部研究協力課研究支援係	

運営委員（総合研究博物館専任教員を除く）

法文学部 渡辺 芳郎 教授	教育学部 林 進 教授
理学部 山根 正気 教授	医学部 井上 尚美 講師
歯学部 島田 和幸 教授	工学部 村島 定行 教授
農学部 津田 勝男 教授	水産学部 中村 薫 教授
医歯学総合研究科 中村 典史 教授	

兼務教員（敬称略）

地球科学分野

森脇 広：法文学部	(自然風景の変化に関する研究)
八田 明夫：教育学部	(理科教育、有孔虫の研究)
松井 智彰：教育学部	(斜長石巨晶の鉱物学的研究)
井村 隆介：理学部	(活断層と活火山の活動史とその災害に関する研究)
河野 元治：理学部	(鉱物科学・粘土科学・地球環境科学)
小林 哲夫：理学部	(火山地質、噴火現象、テフロクロノロジー)
中尾 茂：理学部	(姶良カルデラ周辺の地殻変動の研究)
仲谷 英夫：理学部	(地質古生物標本に基づく生命と地球環境の変遷史)
根建 心具：理学部	(原始地球における生命と環境の共進化)
山本 啓司：理学部	(ヒマラヤ山脈のテクトニクス)
櫻井 仁人：工学部	(黒潮流軸変動・鹿児島の気候と海)
西 隆一郎：水産学部	(海洋地形学)
日高 正康：水産学部	(海底地質学・浅海沿岸域の海底地質と底層流)

生物学分野

河合 溪：多島圏研	(南西諸島における海産無脊椎動物の種分化)
野田 伸一：多島圏研	(医学的に重要な昆虫・ダニ類の分布)
日高 哲志：多島圏研	(南西諸島における果樹農業の実態と今後の展開)
久保田康裕：教育学部	(植物群集の動態と多様性の維持機構)
相場慎一郎：理学部	(多雨林の樹木種多様性)
鈴木 英治：理学部	(熱帯林の動態と更新・鹿児島県の植生)
宮本 旬子：理学部	(陸上植物の多様性の開放)

佐藤	正典：理学部	(海産底生無脊椎動物の分類学的研究)
塚原	潤三：理学部	(海産無脊椎動物の生殖と発生)
富山	清升：理学部	(軟体動物貝類)
山根	正氣：理学部	(東南アジア産剣膜翅類の分類と生物地理)
一谷	勝之：農学部	(作物の遺伝的多様性)
馬田	英隆：農学部	(きのこ学・菌類生態学・造林学)
遠城	道雄：農学部	(熱帯産イモ類の生理・生態および形態学的研究)
富永	茂人：農学部	(農業技術と農器具の進歩に関する研究)
中西	良孝：農学部	(在来家畜および野生化動物の保護と活用に関する研究)
米田	健：農学部	(森林の生態と管理)
安藤	清一：水産学部	(水棲動物の脂質輸送タンパク質遺伝子のin silicoクローニング)
大富	潤：水産学部	(エビ・カニ類および魚類の資源生物学)
四宮	明彦：水産学部	(魚類の分類生態学の研究)
鈴木	廣志：水産学部	(大型十脚甲殻類の分類と生態)
寺田	竜太：水産学部	(熱帶性海藻類の分類)
山田	章二：水産学部	(魚類ペプチダーゼ遺伝子のcDNA解析)
山本	智子：水産学部	(海洋生物の群集生態学的研究)

考古学・歴史学・民俗学分野

新田	栄治：法文学部	(東南アジア考古学)
原口	泉：法文学部	(薩摩藩の博物学)
本田	道輝：法文学部	(九州と南西諸島の文化交流の研究)
渡辺	芳郎：法文学部	(薩摩焼の考古学的研究)
梅原	正信：教育学部	(歴史教育)
下原	美保：教育学部	(近世初期のやまと絵について、近世薩摩の絵師について)
日隈	正守：教育学部	(日本中世諸国一宮制の研究)

教育学・理学・学術情報学分野

佐野	英樹：学術情報基盤センター	(システム制御理論)
森	邦彦：学術情報基盤センター	(光情報処理、遺伝的アルゴリズム)
河原	尚武：教育学部	(鹿児島における学校関係資・史料の調査・研究)
土田	理：教育学部	(観察・実験場面における児童・生徒のグラフ認知過程、観察・実験活動へ児童・生徒同士のコミュニケーションが果たす役割)
穴澤	活郎：理学部	(非人為作用による水質形成機構の解明)
有馬	一成：理学部	(タンパク質分解酵素アイソザイムの分子進化)
楠元	芳文：理学部	(光化学・環境化学・クリーンエネルギー化学)
富安	卓滋：理学部	(環境中における水銀の挙動)
八木	史郎：農学部	(植物・菌類のレクチンタンパク質の分布)
藤枝	繁：水産学部	(鹿児島県海岸における漂着物に関する研究)
大西	佳子：医歯学総合研究科	(歯学関係の展示研究、サイエンス・コミュニケーション)

学外協力研究者（鹿児島大学総合研究博物館組織規則に従い学外の協力研究者を置く）

秋元	和実：熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター助教授	(古生物学、底生有孔虫類を用いた地質時代の海洋環境の復元)
石畠	清武：鹿児島大学名誉教授	(熱帯園芸学、熱帯果樹、植物、野菜類の導入、順化、生態、形態の研究評価とそれらの栽培及び改良に関する研究)
稻田	博：(社)鹿児島県測量設計業協会 常任顧問	(河川砂防および海洋学)

- 浦島 幸世：鹿児島大学名誉教授（地殻における元素の移動と濃集、たとえば熱水の溶存物質の移動と濃集による金属鉱床の研究）
- 太田 英利：琉球大学熱帯生物圏研究センター教授（爬虫両生類の系統・分類・生物地理・自然史・保全、特にアジア東部からオセアニア西部にかけての亜熱帯および熱帯域の島嶼における種分化、系統進化について研究）
- 木下 紀正：鹿児島大学名誉教授・鹿児島大学産官学連携推進機構客員教授（素粒子・原子核物理学・衛星画像解析による地球環境科学）
- 税所 俊郎：鹿児島大学名誉教授（海洋生物学、水族生態学、水産動物学に関する研究）
- 櫻井 真：鹿児島純心女子短期大学助教授（魚類の繁殖生態を中心とする生活史の研究）
- 鮫島 正道：第一幼稚教育短期大学助教授（動物形態学、鳥類骨格による比較形態学的研究、鹿児島県に分布する脊椎動物のフィールド調査による生態観察と分類・形態学的研究）
- 下山 正一：九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門生物圏進化学講座助手（古生物学と地質学、軟体動物化石の系統分類と群集古生態の研究・生物起源堆積物の生成、運搬、拡散過程の理論的研究・新生代の地層区分と年代測定に関する地質学的研究・化石と地層を使った九州の地殻運動累積傾向の研究）
- 田川日出夫：鹿児島大学名誉教授（植物生態学・森林生態学・植生学）
- 田代 正盛：タシロ眼科医院（医学・眼科、眼球の病理組織学的研究）
- 土田 充義：鹿児島大学名誉教授（日本建築史、神社建築・日本の民家・近代建築を研究）
- 西中川 駿：放送大学鹿児島学習センター所長（動物考古学、動物解剖学）
- 早坂 祥三：鹿児島大学名誉教授（層位学、古生物学、地史学、海洋地質学）
- 福田 晴夫：鹿児島県自然環境保全審議会委員（生物学・昆虫生態学、蝶類の生活史・日本蝶相の成立史、とくに南方からの移動種に関する研究）
- 藤田 晋輔：鹿児島大学名誉教授（樹木の材鑑定、循環型社会システムの技術的構築、有機系廃棄物のエネルギー化と有価物化）
- 堀田 満：鹿児島県立短期大学長・鹿児島大学名誉教授（植物系統分類・地理学、熱帯植物学、有用・民族植物学の研究）
- 丸野 勝敏：（カヤツリグサ科植物、ハリイ属植物、ミクリ科植物の分類）
- 萬田 正治：鹿児島大学名誉教授（畜産学・とくに動物行動学を基礎とする家畜管理技術の開発）
- 三木 靖：鹿児島国際大学生涯学習センター長・鹿児島国際大学短期大学部教授（中世城郭史、日本荘園史、戦国史、南島史、文化財史の研究）
- 山下 智：鹿児島大学名誉教授（動物生理学とくに味覚・嗅覚の神経生理学を専門とし、化学感覚の神経情報の電気生理学的解析、および昆虫、魚類、両生類にわたる比較生理学の研究）
- 湯川 淳一：鹿児島大学名誉教授・九州大学名誉教授・元九州大学総合研究博物館長（タマバエ類の分類学的及び生態学的研究・昆虫と寄主植物の相互関係・地球温暖化が昆虫に及ぼす影響・インドネシア、クラカタウ諸島の生態遷移に関する研究）

2 総合研究博物館規則等

鹿児島大学総合研究博物館規則

(平成16年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島大学学則（平成16年4月1日制定）第7条第2項の規定に基づき、鹿児島大学総合研究博物館（以下「博物館」という）の組織に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 博物館は、鹿児島大学（以下「本学」という）の学内共同教育施設として、本学の学術標本資料の収蔵、展示、公開及び学術標本資料に関する教育研究支援を行うとともに、学内外の教育研究活動に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 博物館においては、次に掲げる業務を行う。

- 1) 学術標本資料の収集及びその利用に関すること。
- 2) 学術標本資料の解析及び学術評価に関すること。
- 3) 学術標本資料の情報化に関すること。
- 4) その他博物館の目標を達成するために必要なこと。

(研究部)

第4条 博物館に、研究部を置く。

2 研究部に次の2系を置く。

　資料研究系

　分析研究系

(職員)

第5条 博物館に、次に掲げる職員を置く。

- 1) 博物館長
- 2) 専任教員
- 3) その他必要な職員

2 前項第2号及び3号の職員は、博物館長の命を受け、博物館の業務に従事する。

(博物館長)

第6条 博物館長は、本学の専任教員のうちから、国立大学法人鹿児島大学学内共同教育施設等人事委員会が推薦し、学長が選考する。

2 博物館長は、博物館の業務を掌理する。

3 博物館長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、博物館長に欠員を生じた場合の補欠の博物館長の任期は、前任者の残任期間とする。

(兼務教員)

第7条 博物館に、兼務教員を置くことができる。

- 2 兼務教員は、所属部局長を経て申し出のあった者について、学長が兼務を命ずる。
- 3 兼務教員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(研究協力者)

第8条 博物館に、学外協力研究者を置くことができる。

2 協力研究者は、国立大学法人鹿児島大学総合研究博物館運営委員会の議を経て、博物館長が以囑する。

(事務)

第9条 博物館に関する事務は、研究協力部研究協力課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、博物館に関し必要な事項は、博物館長が別に定める。

附則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行前に在職する博物館長は、この規則により選考された博物館長とみなし、その任期は第6条3項本文の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。
- 3 この規則の施行前に在職する兼務教員は、この規則により兼務された兼務教員とみなし、その任期は、第7条第3項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附則

この規則は、平成17年5月25日から施行する。

鹿児島大学総合研究博物館運営委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人鹿児島大学組織規則（平成16年規則第1号）第21条第2項の規定に基づき、鹿児島大学総合研究博物館運営委員会（以下「委員会」という）に関し、必要な事項を定める。

(組織)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 1) 博物館長
 - 2) 博物館の専任教員
 - 3) 各学部及び大学院医歯学総合研究科の教授、助教授又は講師のうちから選出された者 各1名
- 2 前項第3号に規定する委員は、それぞれの部局の長の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 第1項第3号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、博物館の管理運営に関し、次に掲げる事項を審議する。

- 1) 管理運営の基本方針に関すること。
- 2) 諸規則の制定改廃に関すること。
- 3) 中期目標、中期計画及び点検・評価に関すること。
- 4) 予算決算に関すること。
- 5) 概算要求に関すること。
- 6) その他博物館の重要事項に関すること。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、博物館長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 委員会は、委員の過半数の出席により成立し、議事は出席委員の過半数により決し、可否同数のときには議長の決するところによる。

(代理出席)

第6条 委員が事故のために出席できないときは、代理の者を出席させることができる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。

(部会)

第8条 委員会に、専門的事項を審議するため、部会を置くことができる。

2 部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、研究協力部研究協力課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるものほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規則は平成16年4月1日から施行する。

附則

この規則は平成17年4月1日から施行する。

附則

この規則は平成18年4月1日から施行する。

鹿児島大学総合研究博物館学外協力者に関する申し合わせ

(趣旨)

1 鹿児島大学総合研究博物館規則第8条第1項の規定に基づき、鹿児島大学総合研究博物館（以下「博物館」という）の研究等の推進を図るため、学外協力研究者に関する必要事項について申し合わせる。

(申し込み)

2 学外協力研究者として、博物館において協力活動を行おうとする者は、所定の申込書（別紙様式第1号）により博物館長に提出するものとする。

(選考方法)

3 博物館長は、2により申し込みのあった者について、鹿児島大学総合研究博物館運営委員会（以下「運営委員会」という）で選考するものとする。

(受入期間)

4 学外協力研究者の受入期間は2年とし、再任は妨げない。

(給与及び経費)

5 学外協力研究者にかかる給与及び必要経費については、博物館は負担しない。

(協力内容)

6 学外協力研究者は、博物館の職員と連携し、博物館の標本の整理・保管、その標本に基づく研究等の推進のための協力をを行うものとする。

(研究の公開)

7 学外協力研究者は、博物館の協力活動を通じて知り得た研究データ等を公開しようとする場合は、博物館長の承諾を得て行うものとする。

(活動中の事故)

8 学外協力研究者が活動中に不慮の事故を受けた場合は、それにかかる費用は本人が負担するものとする。

(その他)

9 この申し合わせに定めるものほか、学外協力研究者に関する必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この申合せ施行後、最初委嘱される学外協力研究者の受入期間は、4の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。
- 3 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

鹿児島大学総合研究博物館プロジェクト推進部会内規

(平成18年3月15日)
運営委員会決定

(設置)

第1条 鹿児島大学総合研究博物館（以下「博物館」という。）運営委員会規則第8条の規定に基づき、運営委員会にプロジェクト推進部会（以下「部会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 部会は、次の事業を行う。

- (1) 研究プロジェクトの企画・実施
- (2) 研究プロジェクトの推進を支援するための活動

(組織)

第3条 部会は、次の各号に掲げる部会員をもって組織する。

- (1) 博物館組織規則第7条第1項に規定する教員のうちから館長及び専任教官が選出した部会長
- (2) 博物館組織規則第7条第1項に規定する教員のうちから館長・専任教員及び部会長が認めた者 数名
- (3) 博物館長
- (4) 専任教員

2 部会員の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 部会員に欠員を生じた場合の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会長)

第4条 部会長は、部会を招集し、その議長となる。

2 部会長に事故があるときは、部会長があらかじめ指名する部会員がその職務を代理する。

(議事)

第5条 部会は、部会員の過半数の出席により成立する。

2 部会の議事は、出席部会員の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(部会員以外の者の出席)

第6条 部会長が必要と認めるときは、部会員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。

(事務)

第7条 部会に関する事務は、総務部研究協力課において処理する。

附 則

- 1 この内規は、平成18年3月15日から施行し、平成18年4月1日から適用する。
- 2 この内規の施行後最初に任命される第3条第1項第1号から4号に規定する部会員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、平成19年3月31日までとする。

鹿児島大学総合研究博物館企画交流部会内規

(平成18年3月15日)
運営委員会決定

(設置)

第1条 鹿児島大学総合研究博物館（以下「博物館」という。）運営委員会規則第8条の規定に基づき、運営委員会に企画交流部会（以下「部会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 部会は、次の事業を行う。

- (1) シンポジウム、研究会、公開講座等の企画・実施
- (2) 学外協力研究者の募集と情報交換

(組織)

第3条 部会は、次の各号に掲げる部会員をもって組織する。

- (1) 博物館組織規則第7条第1項に規定する教員のうちから館長及び専任教員が選出した部会長
- (2) 博物館組織規則第7条第1項に規定する教員のうちから館長・専任教員及び部会長が認めた者 数名
- (3) 博物館長
- (4) 専任教員

2 部会員の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 部会員に欠員を生じた場合の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会長)

第4条 部会長は、部会を招集し、その議長となる。

2 部会長に事故があるときは、部会長があらかじめ指名する部会員がその職務を代理する。

(議事)

第5条 部会は、部会員の過半数の出席により成立する。

2 部会の議事は、出席部会員の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(部会員以外の者の出席)

第6条 部会長が必要と認めるときは、部会員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。

(事務)

第7条 部会に関する事務は、総務部研究協力課において処理する。

附 則

- 1 この内規は、平成18年3月15日から施行し、平成18年4月1日から適用する。
- 2 この内規の施行後最初に任命される第3条第1項第1号から4号に規定する部会員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、平成19年3月31日までとする。

鹿児島大学総合研究博物館出版広報部会内規

(平成18年3月15日)
運営委員会決定

(設置)

第1条 鹿児島大学総合研究博物館（以下「博物館」という。）運営委員会規則第8条の規定に基づき、運営委員会に出版広報部会（以下「部会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 部会は、次の事業を行う。

- (1) ニュースレター、広報、モノグラフ等の編集・刊行
- (2) ホームページの編集・刊行
- (3) その他博物館の行う出版広報活動

(組織)

第3条 部会は、次の各号に掲げる部会員をもって組織する。

- (1) 博物館組織規則第7条第1項に規定する教員のうちから館長及び専任教官が選出した部会長
- (2) 博物館組織規則第7条第1項に規定する教員のうちから館長・専任教員及び部会長が認めた者 数名
- (3) 博物館長
- (4) 専任教員

2 部会員の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 部会員に欠員を生じた場合の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会長)

第4条 部会長は、部会を招集し、その議長となる。

2 部会長に事故があるときは、部会長があらかじめ指名する部会員がその職務を代理する。

(議事)

第5条 部会は、部会員の過半数の出席により成立する。

2 部会の議事は、出席部会員の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(部会員以外の者の出席)

第6条 部会長が必要と認めるときは、部会員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。

(事務)

第7条 部会に関する事務は、総務部研究協力課において処理する。

附 則

- 1 この内規は、平成18年3月15日から施行し、平成18年4月1日から適用する。
- 2 この内規の施行後最初に任命される第3条第1項第1号から4号に規定する部会員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、平成19年3月31日までとする。

3 部会

- | | | |
|--------------------------------------|------|------------|
| 1. プロジェクト推進部会 | 委員長 | 塚原 潤三 (理学) |
| 八田 明夫 (教育) ; 富永 茂人 (農学) ; 鈴木 廣志 (水産) | 専任教員 | 本村 浩之 |
| 2. 企画交流部会 | 委員長 | 渡辺 芳郎 (法文) |
| 山根 正気 (理学) ; 富安 卓滋 (理学) ; 櫻井 仁人 (工学) | 専任教員 | 落合 雪野 |
| 3. 出版広報部会 | 委員長 | 土田 理 (教育) |
| 井村 隆介 (理学) ; 有馬 一成 (理学) ; 藤枝 繁 (水産) | 専任教員 | 橋本 達也 |

4 2006年度の企画事業概要

4月6日(木) 16:00~17:00

特別講演会 「Jaws ! False teeth and gums-seeking the earliest fossil vertebrates especially sharks」

Dr. Susan Turner • Curator, Queensland Museum, Australia

場所：郡元キャンパス 理学部1号館1階102教室

5月13日(土) 13:00~15:00

第6回自然体験ツアー 「鹿児島湾海藻ウォッティングー水の中のゆたかな森へー」

寺田竜太 (鹿児島大学水産学部 助教授)

集合場所：桜島ビジターセンター (現地集合、現地解散) 定員20名

5月20日(土) 13:30~15:30

第6回公開講座 「作ってみよう！海藻おしば」

寺田竜太 (鹿児島大学水産学部 助教授)

場所：水産学部学生実験室 定員20名

6月3日(土) 13:30~15:30

第11回研究交流会 「天然記念物という文化財」

桂 雄三 (文化庁文化財部記念物課 主任文化財調査官)

場所：郡元キャンパス 総合教育研究棟203号室

7月28日(金) 16:00~17:00

特別講演会 「フタバスズキリュウと海生は虫類」

佐藤たまき (国立科学博物館 特別研究員)

場所：郡元キャンパス 理学部1号館1階101教室

9月1日(土) 13:30~15:00

神領10号墳発掘調査 現地説明会

橋本達也 (鹿児島大学総合研究博物館 助教授)

場所：曾於郡大崎町横瀬

10月17日(火)～11月17日(金) 10：00～17：00 期間中全日開催

第6回 特別展「発掘！鹿児島の古墳時代」

場所：郡元キャンパス 総合教育研究棟2F プレゼンテーションホール

11月11日(土) 14：30～16：00

第10回 市民講座「貝化石からみた日本列島の縄文の海」

松島義章（放送大学大学院 客員教授）

場所：郡元キャンパス 総合教育研究棟203号室

11月11日(土) 16：15～17：00

第3回学内コンサート「薩摩琵琶の夕べ」

島津義秀（精矛神社 宮司・加治木島津家第十三代当主）

場所：郡元キャンパス 総合教育研究棟エントランスホール

12月16日(土) 13：30～15：30

第11回 市民講座「活火山 霧島」

井村隆介（鹿児島大学理学部 助教授）

場所：郡元キャンパス 総合教育研究棟203号室

5 2006度の企画事業

1. 研究交流会

(1) 第11回「天然記念物という文化財」

6月3日(土)午後1時30分から3時30分まで、文化庁文化財部記念物課主任の桂雄三氏を招いて第11回研究交流会を総合教育研究棟203号教室で開催し、36名の参加者があった。

最初に文化財保護法による文化財が、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、伝統的建造物群の5種類に分類されること、記念物には歴史的価値の高い遺跡、鑑賞上価値の高い名勝地、学術上価値の高い動植物・鉱物などが含まれることを、いくつかの例を挙げて述べられた。さらに鹿児島の天然記念物を含めて、指定と保存の重要性について力説された。総合研究博物館が「鹿児島フィールドミュージアムの構築」プロジェクトを進めていることもあり、非常に有意義な研究交流会であった。



2. 市民講座

(1) 第10回「貝化石からみた日本列島の縄文の海」

11月11日(土)午後1時30分から4時まで、放送大学大学院客員教授の松島義章氏を招いて第10回市民講座を総合教育研究棟203号教室で開催し、25名の参加者があった。

この市民講座は、特別展「発掘！鹿児島の古墳時代」の一環として行われたもので、時代は異なるが、日本の縄文時代の海域とそこに生息していた貝類の研究から読み取れる当時の気候や堆積環境について詳しい紹介があった。最終氷期から海平面が上昇し、縄文時代には現在より5m近く海平面が高かった、いわゆる「縄文海進」の話は参加者に強い印象を与えたようだ。



(2) 第11回「活火山 霧島」

12月16日(土)午後2時30分より4時まで、鹿児島大学理学部助教授の井村隆介氏を講師に第11回市民講座を総合教育研究棟203号教室で開催し、33名の参加者があった。

この市民講座は、井村氏等が行った科研費による調査研究の成果を発表したもので、古文書・写真・手紙等の資料を収集し、「活火山霧島」の噴火史、噴火の記録について紹介した。霧島地域の地質調査による溶岩や火山灰の重なりから認められる噴火の歴史と古文書に書かれた実際の火山活動との対比を行い、噴火の様式や規模などを推定することの大さを思い知らされる講演であった。講演終了後に、参加者は附属図書館へ移動し、井村氏が附属図書館のロビーで公開していた「活火山霧島」の古文書・写真・手紙類を実際に見学し、講演の内容を実際の資料で確かめた。参加者からの質問が絶えず、1時間ほどの見学会になった。



3. 公開講座

(1) 第6回自然体験ツアー「鹿児島湾海藻ウォッチング—水の中のゆたかな森へ—」

第6回自然体験ツアーは、鹿児島大学水産学部助教授・寺田竜太氏を講師に迎え、桜島跨越で鹿児島湾に生育する海藻を観察し、海の森の生態環境に親しむことを目的に実施した。

まず、準備段階では、寺田助教授と綿密な打ち合わせを行い、活動全体のデザインを考えた。その結果、自然体験ツアーと公開講座と連動したイベントとして位置づけ、両方に参加できることを条件に、事前に参加者を募ることにした。また、海岸での活動する際に参加者の安全を確保する必要があること、また、おしば作りのために用意できる設備に限界があることから、最大参加者数を20名と設定した。

チラシ等で広報を行なったところ、4月12日の締め切り時点で37名からはがきやファックスで申し込みがよせられた。抽選の結果20名を参加者とし、全員に手引きや地図を郵送した。とくに、雨天や強風の場合はツアーを中止すること、事故防止のために滑らない靴や軍手を用意するよう、呼びかけた。いっぽう抽選に漏れた17人には、その旨をはがきで知らせた。なお、4月18日に参加者1名から、海にはいるのか、荷物を預ける場所はあるのかなどの質問が寄せられた。これについては寺田氏に事実関係を確認し、4月20日にファックスで回答した。

自然体験ツアーは、2006年5月13日(土)の午後1時から午後3時にかけて実施した。これは大潮の干潮時をねらって時期、時間を設定したものである。まず、参加者と海藻たんけん隊長、隊員、サポーターが桜島ビジャーセンター前に現地集合し、活動の内容や注意点について説明を行なった。参加者のうち、最年少は小学校2年生、最年長は74歳であった。なお、隊長とは寺田氏、隊員とは活動をサポートする水産学部大学院生の島袋寛盛氏、上治真也氏、水産学部研究生の緒方郁雄氏、いしがよしえ氏、あおきかずさ氏、サポーターとは本館の本村、落合である。

次に全員が大正溶岩歩道に移動し、海岸で干上がった海藻や、隊員が水深3-10mの海中にも



ぐって採ってきた海藻について、隊長のアドバイスのもと、その色や大きさ、形を陸上で細かく観察した。隊長は、ふだん食べているワカメの分布の南限が鹿児島湾にあることなどを解説し、参加者を海藻の世界にひきこみつつ、その形態や生育地の違いをていねいに説明した。海岸は足場が悪く、うっかり転倒してしまうことももいたが、全員無事に観察や採集を行なうことができた。

最後に、ふたたび全員が桜島ビジターセンター前に集合し、「海藻たんけんメモ」を記入し、活動を振り返った。その特徴的な記入例を紹介する。

項目1) どんなかたちの海藻を見つけたかな？色はなにいろ？

- 「ヒジキ赤色」（7歳）
- 「色、き色、しょうかん、プルプル」（9歳）
- 「ミルが三種類あった」（40代）
- 「カゴメのり 小さいまるーいがたくさんある。へんなかたちだった」（9歳）
- 「忘れていたり、自信がなかったけどガッツリ覚えた!!」（30代）

項目2) いちばん、おもしろかったこと

- 「ミルという海藻は韓国人がキムチなどにも入れると聞いて、びっくりしました」（17歳）
- 「ひじきの実みたいなのをつぶした音」（9歳）
- 「ミルが一つの細胞といわれても信じられない」（42歳）
- 「同じものかと思ってよくみるとすこしだけちがっておもしろかった」（11歳）
- 「子供たちが生き生きのびのびと採集していて、楽しそうだったこと」（隊員）
- 「子どもが意外に興味津々で行動力があったこと」（隊員）

項目3) よく、わからなかしたこと

- 「浅い所と深い所の海藻の区別」（62歳）
- 「似ている種類がどれがどれだかわからなかった」（43歳）
- 「海藻にぎょうさんムシ？がついていたが、何の幼虫？ムシ？でしょうか？」（35歳）
- 「ひじきは沿岸部にのみ生息するのでしょうか？」（26歳）

項目4) ほかにきづいたこと

- 「わかめが南限ということで一つ勉強になりました」（37歳）
- 「イワヅタがみたかった」（42歳）
- 「海月がいた」（11歳）
- 「子どもの眼の輝き」（36歳）
- 「桜島の海藻の森に潜りたい」（35歳）
- 「こんな近場にあるってやっぱすばらしいですね」（40歳）

「海藻だけじゃなく海洋環境での海藻の役割と海藻に集まる生物との関係についてを教えることができたらいいと思った」（隊員）

（2）第6回公開講座「作ってみよう！海藻おしば」

5月13日の自然体験ツアーに続き、5月20日(土)水産学部学生実験室で、海藻おしばを作る公開講座をおこなった。自然体験ツアー参加者20名に、参加者の孫1名を加えた21名が参加した。

13時30分、学生実験室に集合した参加者は、まず水産学部助教授・寺田竜太氏（隊長）から、13日に記入した「海藻たんけんメモ」を受け取ったあと、おしばとは何か、どのような目的で作るのかについてレクチャーを受け、海藻標本の実物を見て完成状態を確認した。その後、隊長と隊員（水産学部大学院生、研究生）があらかじめ採集しておいた海藻を手に取り、おしば作りを実践した。大きな台紙で作るのは難しいため、ポストカードやしおりを台紙に、繰り返しおしばを作る参加者が多くみうけられた。その過程で、5月13日に観察した海藻の種類を再確認して、その組み合わせを楽しんだり、あるいは新たに出会った種類の海藻を観察したりした。

最後に、隊長が海藻に詳しくなった参加者全員を「海藻たんけん隊隊員」に認定し、これからも鹿児島湾で海藻ウォッチングを続けることを約束して、公開講座を終了した。できあがったおしばは、水産学部で乾燥させた後、後日本館から参加者あてに郵送した。

自然体験ツアーと公開講座の両方で、一般向けの海藻観察会で経験をつんでいた寺田氏のコミュニケーション・スキルが十分に発揮された。このことは、二つのイベントを成功させるうえで、最も重要な要素であったといえよう。わかりやすい用語を選んだトークや、落ち着いたふるまいが、結果的に、参加者が海藻の学術的基礎をスムースにまなぶうえで大きな効果を果たしたのである。また、水産学部大学院生、研究生たちが事前にさまざまな準備をし、当日は参加者をきめこまかくサポートしたこと、参加者が内容や実践を共有することができた。

全体を通じて海藻を手がかりに、身近な海である鹿児島湾の自然に多角的にアプローチするイベントになったといえよう。参加者の積極的な参加や発言、隊長や隊員の協力に感謝したい。



4. 特別展 第6回「発掘！鹿児島の古墳時代」

(1) 展示の企画

総合研究博物館では2002年度以来、鹿児島県内の古墳の発掘調査を毎年継続的に行っており、これまでに鹿屋市串良町岡崎18号墳・20号墳、南さつま市奥山古墳、曾於郡大崎町神領10号墳の調査を進めてきている。

これまでに実施した調査で判明した新たな事実も多く、また出土遺物も蓄積されており、また、近年は大隅地域を中心として地元の教育委員会などが実施する調査で新たな成果が得られつつある。そこで、これらの古墳出土遺物を中心として、鹿児島における古墳の発掘調査を紹介する展示の企画を立てた。

第6回特別展は2006年10月17日(火)から11月17日(金)の間、10時から17時まで開催した。期間中は全日開催し、入場無料で実施している。また、展示資料の絵はがきを5種類作成し、会場において一回の来場につき一人一枚プレゼントした。

(2) 展示資料の概要

展示では以下の3つの構成を取った。

- (i) 総合研究博物館が行った調査の出土遺物を中心に、大隅地域の主要古墳出土遺物、薩摩地域の主要古墳時代墓制出土遺物の展示。
- (ii) これまでの調査の紹介を目的とした発掘調査作業の道具、整理作業の道具、それらの作業風景の写真、遺構・遺物の実測原図・拓本の展示。
- (iii) 地中レーダー探査、3次元計測、鉄器保存処理、人骨の形質人類学的分析、赤色顔料の蛍光X線分析、纖維および木質の分析など、発掘調査および整理過程で行った各種の分析などをポスター展示。

今回の特別展では、なるべく文化財を身近に感じてもらうために可能な資料は露出展示を行ったこと、自らの博物館資料以外に鹿児島県立歴史資料センター黎明館、鹿児島県立埋蔵文化財センターや県内各市町から文化財を借用していることなどから、会場内は死角を作らずに全体が見渡せるように展示台・パネルを設定した。

しかしながら、展示スペースが十分とはいえないこともあって、3つの構成がそれぞれうまく導線で結ばれていたとは言えないという問題があった。

(3) 展示の反応、成果と反省点

展示に先立って8～9月に曾於郡大崎町神領10号墳の発掘調査を実施し、9月1日には地元紙を含め、テレビ・新聞各社の鹿児島ニュースとして取り上げられた。また、埴輪が武人埴輪であったことが調査終了間際にわかったため、あらためて10月12日に報道発表を行った。このときは全国版でも取り上げられている。

展示に先立ってタイミングよく全国版にも掲載されるような新発見があったために、より広く今回の展示が認知される機会を得た。実際展示が始まってから会場では、「埴輪はどこですか」「埴輪を見にきた」という声が多く聞かれた。

展示が始まっている間も、10月19日には地元紙の南日本新聞で紹介され、10月21日には、朝日新聞 鹿児島版 学芸員コーナーに「県内の古墳調査を紹介」として、橋本の執筆した紹介文が掲載された。

さらに、10月31日「塗り変わる隼人像」として朝日新聞 全国版 文化面に今回の展示をメインとした特集記事が組まれた。これによって、関東・関西圏などからの見学者や問い合わせも来るようになった。11月3日には南日本新聞 文化面「大崎・神領10号墳 古墳時代史解く大隅」とする橋本の寄稿文が取り上げられ、地元でも、より特別展の意義を広めることができた



と思う。この展示では、今までになくマスコミに取り上げられたこともあって、遠方からの来館者が多く、また地元での関心を高めることができたと思われる。片道2時間30分もかかる大崎町からは2度もバスツアーが組まれた。

ただし、展示としては武人埴輪という話題の逸品に注目が集中し、これまでに積み上げてきた調査成果が少しかすんでしまったような感もあったことが主催者側としてはやや気になるところではあった。

また、新出資料が多いことや展示担当の橋本が直前の夏に発掘調査を行っていたこともあって、準備期間が十分とは言えず展示解説などの冊子を作成するには至らなかった点も反省点として残る。これは将来的には、あらためて企画を練り直し、今回の展示での成果を反映した鹿児島県の古墳に関するガイド的なものを作成したいと考えている。

特別展アンケート結果

特別展会場では、アンケート用紙を用意し、任意で記入をお願いした。

アンケート回答数：195（入場者1173名のうち）

1. どこから来られましたか？

学内：78、学外／市内：70、学外／県内市外：26、

県外：21（東京都2、神奈川県7、石川県1、大阪府2、福岡県2、熊本県4、宮崎県3）

2. 感想／重複回答あり。

おもしろかった : 102/206 (50%)

興味深い : 103/206 (50%)

なんとも思わなかった : 1/206

つまらなかった : 0

3. いちばん印象に残ったものは何ですか？ (212件回答)

- ・ 武人埴輪 (81) • 剣類 (16) • 人骨 (13) • 大甕 (12) • 出土土器類 (9)

- ・ 朱と丹について (9) ・ 双子の須恵器 (9) ・ 石棺 (6)
- ・ 須恵器のハソウのふたつきの食器 (5) ・ 発掘道具 (5)
- ・ 鹿児島にこんなにたくさんの古墳があることを初めて知った (4)
- ・ 発掘作業風景 (4) ・ 勾玉のアクセサリー (3) ・ 樽形ハソウ (3)
- ・ 鉄製品 (3) ・ 歯 (3) ・ 短甲 (3) ・ 岡崎18号墳 (2) ・ 地下式横穴の墓 (2)
- ・ 地中レーダー探査 (2) ・ 地層のはぎ取り (2) ・ バカボーキ (2)
- ・ 神領10号出土の武人埴輪はとても現代的でびっくりです (1) ……以下1件ずつ
- ・ ガラス ・ 鏡 ・ 横瀬古墳の須恵器 ・ 出土地形 ・ 飯盛山古墳
- ・ 古墳の単口縁壺 ・ パソコンで空洞がわかること ・ 古墳の分布のしかた
- ・ 学生ボランティアが頑張っている姿 ・ 奥山古墳：鹿児島に歴史を感じた
- ・ 地表とセメダイン ・ 記念すべき1000人目だったこと ・ マコ
- ・ 大隅地方に墳墓が多いこと

4. よかった点と悪かった点をあげてください。

よかったです (133件回答)

- ・ とても親切に説明して下さいました有り難うございます。 (14)
- ・ 説明がきちんとつけてあること。 (9) ・ 発掘道具がおいてあったこと。 (8)
- ・ 展示数の多さにびっくりしました。 (6) ・ 古墳や遺跡についての説明がくわしかった。 (6)
- ・ 展示数の多さにびっくりしました。 (6) ・ 解説員の方にお話をたくさん聞くことができたこと。 (5)
- ・ 説明してくれる人がいた。 (5) ・ いろんな資料があってよかったです。 (4)
- ・ 絵はがきのプレゼントがうれしい。 (3) ・ キレイに展示されている点。 (3)
- ・ ゆっくり見れた。 (3) ・ 武人埴輪をみれたこと。 (3)
- ・ 発掘箇所の地図やパネルなどの展示がよかったです。 (3) ・ みやすく並べられてあつたところ。 (2)
- ・ すごく近くで見れたこと。 (2) ・ 発掘の過程がわかつた点。 (2)
- ・ どんな研究をしているのか、鹿児島の古墳時代の一端を知ることができた。 (2)
- ・ 鹿児島の歴史に触れられた点。 (2) ・ いろいろな種類の土器などをまじかで見れたこと。 (2)
- ・ 観覧しやすかったです。 (2) ・ 全体的に良くまとまって分かり易かったです。 (2)
- ・ 絵はがきがいい感じです。 (1) ……以下1件ずつ
- ・ 県内の場所からの出土品で身近に感じられた。
- ・ 無知なまま訪れても、色々質問に答えていただける点：たくさんの土器や、他のものがあった。
- ・ 昔の人と共有の時間を持てたような錯覚を感じた：発掘の道具を初めてみました。
- ・ つぼを見てよかったです。 ・ おもしろかった。 ・ 入り口が入りやすかったです。
- ・ 写真の現場で作業していました。 ・ 見つかった場所を明記してあった点。
- ・ 展示ケースがみやすかったです。 ・ 貴重な資料が見れたこと。
- ・ 現代で使われている物が古墳時代から使われていたこと。 ・ 霧囲気がでていた。
- ・ 写真だとよくわからない鉄剣の実物を見ることができた。
- ・ 須恵器などの食器に加えて、祭り用の鉄器など多岐にわたり様々なものを見る事ができてよかったです。
- ・ 各遺跡の遺物を比較して見ることができたこと。 ・ 鹿児島に広く古墳があることを知りました。
- ・ 大隅半島にこんなりっぱな遺跡があるのを初めて知り、感慨無量です。
- ・ 鹿児島にこんなに素晴らしい遺跡があったとはしりませんでした。
- ・ 県内の古墳資料が集められていてよかったです。 ・ 現在の調査法がいろいろあった。
- ・ 色のついた石棺の壁を生で見れたのは感動。
- ・ 南九州の古墳時代のことが分かり易く解説してあった。 ・ 地形的背景がよくわからました。
- ・ 墓の細かいところまで見れた。 ・ めずらしい出土品が見られた。
- ・ 調査の仕方を詳しく説明してあった。 ・ 鉄剣：すごいと思った。
- ・ 日曜日にも見れる点。 ・ 現代の技術の性能の良さ。 ・ 古墳とは、を再考できたこと。

- ・道具の使い方とか教えてもらえてよかったです。
- ・県内の古墳について大系統的に体系的にまとめてある点。
- ・まだまだ古代の勉強をしないとと思いました。
- ・全てがガラスケースに入っているわけでなくて、近くで見られたこと。
- ・貴重な遺物が間近でさえぎるものなく見れた点。　　・剣。
- ・満足しました、常設展示室が休館で、気落ちしていたところです。
- ・南九州独特の石室が墳丘にどのような形で作られているかが良くわかりました。
- ・明治に見つかった志布志高の古墳。　　・埴輪がかわいかったです。
- ・説明文がほどよい長さだった。

悪かった点（39件回答）

- ・順路がわかりにくかったこと。(3)
- ・展示品一つ一つについての説明や関連情報が掲示してほしかった。(3)
- ・説明が少なかった。(2)
- ・岡崎18号墳の全景がほしかった。あるいは岡崎古墳群全体図。(1) ……以下1件ずつ
- ・読み方が難しいものがあるので、読みカナをつけてあるとなじみやすいと思いました。
- ・個々の展示は良いと思いますが、横のつながり（地域の相違）が分かりにくく感じました。
- ・もっとたくさんあると思っていました。　　・目線より高く展示されている点。
- ・土層断面についてもう少し詳しく知りたかった。　　・せまい。
- ・順路がなく、どこまでが同類区分なのかわかりにくい。
- ・展示目録、解説、図録など。何か、展示に関する資料が欲しいです。
- ・係員が多くてゆっくりみてれない雰囲気だった。　　・展示品が少し少なかった。
- ・場所の説明がほしかった。　　・たくさんの展示物があるので、もっと広い会場があれば。
- ・発掘の様子、裏話などももっと聞きたい。　　・もっと細かいものにも説明が欲しい。
- ・ケースの中のものは見にくかったこと。　　・写真禁止が少し残念。
- ・英語表記がなかったこと。　　・もう少し用語の解説があったらよかったです。
- ・もう少し発掘の手順をくわしく知りたかった。　　・係の人に見張られている気がした、かな？
- ・どの古墳でどのような配置で物品が発見されたかイラストや注意書きが欲しかった。
- ・ぜいたくをいえば展示数でしょうか。　　・お金をかけすぎている点。
- ・写真撮影が全くできない。　　・目線が高い。　　・会場が暑かったです。
- ・発掘されたものについての説明があると昔の人の生活がイメージしやすいと思う。
- ・年代を明確に示してほしいです。（大きく一目でわかるように）
- ・説明文、特に最初のものは一般の人には分かりにくい（難しい）かも。
- ・私は学外の人間で、この展示場の場所がわかりにくかったです。

5. この展示を何でお知りになりましたか？

ポスター	5 1 (2.4%)
たて看板	2 0 (0.9%)
市電広告	7 (0.3%)
博物館ニュースレター	2 (0.1%)
新聞	4 0 (1.9%)
人におすすめられて	4 7 (2.2%)
テレビ	8 (0.4%)
ラジオ	1 (0.05%)
その他／通りがかり	2 1 (1.0%)
講義で	8 (0.4%)
ホームページで	4 (0.2%)

常設展示室で	3 (0.14%)
フリーペーパー誌	1 (0.05%)
案内状	1 (0.05%)
図書館で	1 (0.05%)

6. 鹿児島大学総合研究博物館をご存知ですか？（195名回答）
はい91（46.7%）　いいえ102（52.3%）　無回答2（1%）

7. 今後、どんな展示を見たいですか？（353件回答）
動物 40、植物30、昆虫19、化石 57、鉱物27、歴史72、考古72、鹿児島大学の現在の研究36

要望など

- ・展示物のパンフレット（図録？）のようなものがあれば分かりやすい。もっと説明書きがほしかった。
- ・歴史や考古学に興味があります。これからもぜひ企画してください。
- ・中世が見たい。・各分野にわたる展示を見たい。・天文。
- ・植物及び昆虫の九州以南でしか見られない珍しいもの。
- ・新聞記事以上に細かい検証された内容を仮説段階でも見る事ができれば、おもしろいと思います。
- ・武人の埴輪は、是非常設展示化して欲しい。
- ・遺跡からの出土遺物を見たいです。
- ・鹿児島地区の古代から現代までの生物及び人類の生き立ちからみて、どういうふうに進化してきたかくわしく知りたい。

8. その他気づいた点があれば、自由にお書きください。

〈展示全般について〉

- ・毎年展示を続けて欲しい。・展示を見て、発掘に興味をもちました！！
- ・とてもよい企画をありがとうございました。

〈展示についての意見・要望など〉

- ・用語説明はもう少しあった方がよいかもしれません。
- ・もう少し具体的に説明があると良かったと思います。

〈施設について〉

- ・展示収納が所々危ないような場所がある気がした（地震の時など）会場が広いと良いなあとと思いました。

〈広報について〉

- ・もう少し市民の人々に知らせたらよいと思う。
- ・大学祭に来てこういった展示会があることを知った。せっかくのいい機会ですので広報 etc をもっとよくすればたくさん来場者がくると思います。

〈その他〉

- ・発掘された展示物の評価額及び形になるまでの経緯を知りたい。
- ・旅先で偶然に広告を見てきました。また興味深い展示があれば見学したいです
- ・武人の埴輪は、是非常設展示化して欲しい。
- ・考古学は地味で根気のいるお仕事だと思いました。でも1つ1つパズルのようにつながっていくことで解明されていくのはおもしろいだろうなと思いました。皆さまの研究の一端をのぞかせて頂き、ありがとうございました。全くの素人ですが、こうして拝見すると、古代の人たちがどのような思いで生計を営んできたのだろうと思うと、愛おしく感じてしまいました。

- ・鹿児島の豊かな遺跡に驚き、認識を改めました！！何度も分けてまたうかがいたいと思います。
- ・新聞記事のコピーサービスなどあればもっとよかったです。
- ・鹿大の考古資料の資料集が出版されたら助かります。(特に土師器についての編年論集)
- ・出土品の数量などわかる情報があったら面白いかも、発掘前の古墳の外観など。盗掘の可能性は？
- ・今後もどしどし市民、県民に開示・公開していただき、共に歩む大学であってほしい。
- ・最後に展示物の説明をしてくれたのがよかったです。説明を読むよりわかった。
- ・展示会場の係の人たちが親切に説明して下さいました。・駐車場の案内がほしい。
- ・鹿大にある歴史的資料(研究)等の定期的な公開を望む。
- ・質問にていねいに答えていただきました。ありがとうございました。
- ・もっと情報公開してもらいたい。・ご案内ご苦労様でした。会場を広げたいですね。
- ・有料で良いから友の会組織をつくってNews Letter を定期的に入手できるようにしてほしい。
- ・美術館などで学芸員の方の説明がありますが、少しそういう解説があればもっと良く理解できる。
- ・土器の修復に時間と手間がかかりそうだと思った。
- ・とてもおもしろく興味深く見させて頂きました。次会も見に来たいと思います。
- ・見に来て、とてもよかったです。・ポスターカードがうれしかった。
- ・この特別展を知らない友人が多かった。もっと大きく広告していいと思う。
- ・発掘って大変なんだと思いました。・係員の方の対応が丁寧でした。
- ・昔の鹿児島の人々が、中央と対立一辺倒でなく、交流もあったらしいと展示にあったので、どんな交流か興味がわいた。
- ・神領の発掘時、外周の竹切作業に参加しました。学問研究は永遠です。この灯を大きく継続させますように！

5. その他の活動

(1) 特別講演会「Jaws! False teeth and gums-seeking the earliest fossil vertebrates especially sharks」

2006年4月6日(木)にスザン・ターナー氏(オーストラリア・クイーンズランド博物館キュレーター)を迎えて特別講演会を開催した。

ターナー氏は「我々人間自身を理解するためには、我々の祖先である魚類を調べて理解しなければならない」と述べ、脊椎動物の歯の由来を探る研究について「ジョーズ・アゴの骨！にせの歯と歯茎 最も初期の脊椎動物化石を捜し求めて」と題して講演して下さいました。彼女は、4億5千万年以上前に生息していた頸のない魚類や現在の軟骨魚類の最も古い祖先の“鱗(うろこ)”から“歯”が派生したと解説し、近年論議されているコノドント(古生代の絶滅した海産動物のものといわれる小さな歯のような微化石)も脊椎動物ではないことを紹介して下さいました。



講演会は通訳なしの英語で行われたが、多くの方が公聴した。最新の興味深い研究成果を分かり易く解説して下さったため、公聴者の理解度も深く、質疑応答も活発に行われた。最後にターナー博士を紹介して下さった岡田博有氏（元九州大学教授・元日本地質学会長）に深く感謝したい。

(2) 特別講演会「フタバスズキリュウと海生は虫類」

7月28日(金)午後4時より5時まで、博物館兼務教員の仲谷英夫氏（理学部教授）の紹介で、国立科学博物館学振特別研究員の佐藤たまき氏による第3回特別講演会を理学部1号館1階101教室で開催し、学生も含め40名をこえる参加者があった。1968年に福島県で発見されたフタバスズキリュウが新属新種であることがわかり、エラスモサウルス類の *Futabasaurus suzukii* (フタバサウルス・スズキイ) と命名されたまでのいきさつが紹介された。また、フタバスズキリュウがエラスモサウルス類の進化の解明に重要な標本であること、一緒に産出したサメの歯化石とともに当時の海の生態系や古生物地理の解明が今後の研究として期待できることが述べられた。多くの理学部の学生が参加していたが、強い刺激を受けた様子であった。



(3) 第3回学内コンサート「薩摩琵琶の夕べ」

11月11日(土)午後4時15分から5時まで、加治木島津家第十三代当主で精矛神社宮司の島津義秀氏を招いて第3回学内コンサートを総合教育研究棟エントランスホールで開催した。この学内コンサートは特別展「発掘！鹿児島の古墳時代」の一環として行われたもので、100名をこえる参加者が島津氏の薩摩琵琶の弾奏と軽快なトークに酔いした。



(4) 神領10号墳 発掘調査 現地説明会

総合研究博物館 橋本は科研費若手研究Aによって、8月17日より9月9日まで曾於郡大崎町横瀬に所在する前方後円墳、神領10号墳の発掘調査を実施した。2005年度の調査では、前方後円墳の墳形・規模の確認を行い、またそれとともに埴輪や土器が出土した。

その調査成果を現地で一般に公開するために現地説明会を9月2日に開催した。現地説明会に先だって調査の進展とともに一定の成果が明らかになった8月31日に記者発表を行い、9月1日には新聞・テレビで報道がなされている。

現地は交通の便が悪いところではあるが、130人を超える参加者があった。片道2時間30分かかる鹿児島市内から多くの参加者があった。

なお、報道機関への情報通知、現地説明会時の駐車場整理など開催にあたっては、大崎町教育委員会をはじめ大崎町の関係機関から多くの協力を得られた。また、古墳の地主、近隣住民の方々にもご理解・ご協力を得られたことが円滑な開催につながっている。



6 常設展示室

(1) 入館者数（総計・月別・曜日別）

2006年度は1673名の入館者数であった。開館から3年目になるが、総入館者数は減少傾向にあり、今年度は昨年度より約350人減っている。月別の入館者数は7月・11月の入館者が多く、9月・1月・2月が少ない。4月から7月は、新入生のキャンパス見学や大学の授業が常設展示室で行われるなど、団体入館が多く、7月は特に授業が多く行われた。11月は大学祭のため一般の入館者が多かった。入館者の少ない月は、大学の夏季や冬季休業の期間中や、また年度末になり大学関係の授業での利用や外部からの団体見学が減少するためである。月別の入館者数の動きは、例年同じ増減がみられ、おおむね大学の年間行事に沿うものとなっている。

常設展示室 月別入館者数

2006年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数 (人)	176	95	103	216	131	78	169	350	114	78	69	94	1673
開館日	20	17	22	20	20	21	21	22	16	17	20	22	238

曜日では、金曜日が多く、土曜日が少なかった。今年度は金曜日に授業や団体見学が多かったため、金曜日の入館者が特に多くなったと思われる。土曜日は個人での入館が中心で団体見学が少ないとため、入館者数が伸びにくい。11月の土曜日が他の月に比べ多いのは、大学祭のためである。

設展示室 曜日別入館者数

2006年度

	火	水	木	金	土
4月	48	21	13	29	10
5月	27	4	44	6	14
6月	13	7	19	48	16
7月	33	101	48	28	6
8月	16	27	51	33	4
9月	3	7	50	12	6
10月	40	12	17	84	16
11月	12	38	16	17	121
12月	15	62	4	28	5
1月	32	34	0	8	4
2月	5	6	5	41	6
3月	11	9	15	40	4
合計(人)	255	328	282	374	212

※ 但し、この他に特別開館などで入館者があった。(月曜日117名、日曜日105名)

(2) 利用・活用状況

総入館者数のうち、団体入館者は1086名、個人の入館者は587名であった。今年度も大学関係では講義やイベント、同窓会などや高等学校のPTA研修で多くの団体見学が来館され、個人の入館者は、11月の大学祭の土曜日・日曜日が最も多かった。また、昨年度と同様に博物館

実習関係の利用があった。

主な団体利用者

〈鹿児島大学関係〉

工学部 オリエンテーション： 理学部 博物館資料論： 法文学部 人文科学基礎

共通教育科目等授業： 鹿児島大学教育学部附属小学校 歴史クラブ 3年生授業

高校生インターシップ： 博物館実習： シニア短期留学： S34年鹿大農学部卒業生（あらた34会）同窓会

〈高等学校PTA研修による見学〉

鹿児島県立国分高等学校： 鹿児島県立川内高等学校： 宮崎県立高千穂高等学校： 宮崎県立福島高等学校： 宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校

〈その他〉

雲南農業大学： 国立済州大学： 鹿児島純心女子短期大学人間文化コース： 指宿文化財保護審議会： 指宿市開聞仙田第一老人クラブ

(3) 室内環境

昭和3年に建てられた鉄筋コンクリートの建物を利用しているため、昨年度同様に、24時間空調しているが、夏場と冬場では室内の気温に差が生じ、湿度も高い状態にある。また、春から夏は、隣接する植物園の影響もあり、室内に蚊、小蟻、毛虫類の侵入が多くみられる。展示室の室内環境としてはあまり良好とはいえないが、大学に現存する最も古い建物を利用し展示公開するという条件を活かすため、室内環境と向き合うことが求められている。

常設展示室 年間温湿度

2006年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1階ケース 温度 (℃)	19.2	22.1	24.5	27.1	26.2	24.8	23.0	18.8	15.8	14.4	16.1	17.3	20.8
湿度 (%)	71.2	77.3	73.5	62.3	54.5	67.9	73.2	70.0	72.5	62.7	66.5	64.0	68.0
2階ケース 温度 (℃)	19.5	22.2	24.1	26.0	25.1	24.1	23.1	18.6	17.3	16.1	16.5	18.5	20.9
湿度 (%)	73.6	80.6	80.0	67.5	61.6	80.3	79.8	76.2	77.3	66.4	72.0	69.2	73.7

(4) アンケート

今年度は、入館者の254名にアンケートを答えていただいた。開館して3年目にあたるが、各項目とも、開館年よりの回答傾向に大きな変化はみられない。年齢別では19歳以下が最も多く、20代とあわせると、7割以上が若年層からの回答になっている。居住地別では、鹿児島大学関係者が最も多く、鹿児島市内からなど、近隣からの来館者が多く、鹿児島県以外は1割強だった。入館した理由としては、「人にすすめられて」「その他」の項目が多かった。「その他」の理由としては、「授業で訪れた」「偶然通りかがった」などがみられた。感想では、7割近くが大変よい、残りの約3割がよいとなり、当館としてはうれしい結果であるが、アンケート記入されない入館者が大多数であることから、謙虚に受けとめていきたい。

具体的な感想では、「静かでゆっくり見学することができてよかった」「興味深くおもしろかった」「もっと見たい」「展示を増やして欲しい」という意見が多くみられた。展示内容では、「大学の敷地よりたくさんの石器や土器、陶片などが出土していることに驚いた」「手廻し計算器にふれられておもしろかった」「アンモナイトが大きかった」「ストロマトライトに感動し

た」など展示内容に関しての感想が多く寄せられた。

要望では、昨年度に引き続き、「常設展示室の広報に関して、もっとアピールするべきだ」との意見が多く、「日曜日の開館」を希望する声も強い。また、解説では、展示担当者からの直接展示解説を受けた場合はとても好況で、わかりやすく理解が進んだということであるが、反面、担当者から解説がない場合、「現在の展示キャプションだけではわかりにくい」「説明を増やしてほしい、音声ガイドが必要」などの声もあり、展示解説について、よりわかりやすいものになるよう心がけていきたい。

今年度から見られる変化としては、昨年度までは、展示スペースの狭さや施設の不備、場所のわかりにくさなどの意見が多く見られたが、これらの意見が減少している。これは当館の建築が11月に登録有形文化財に指定されたことが影響していると思われる。建物自体が昭和初期に建てられた貴重な資料であり、これを生かしての常設展示室という役割を知っていただけたように思う。

アンケート集計結果

1) 性別

男 132名 女 122名

2) 年齢

19歳以下	134名
20歳代	48名
30歳代	12名
40歳代	13名
50歳代	17名
60歳代	20名
70歳代	6名
無回答	4名

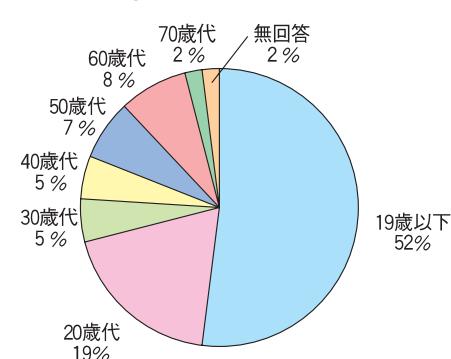
3) 居住地

市内	75名
市外	26名
県外	34名
大学関係者（学生・教職員）	118名
無回答	1名

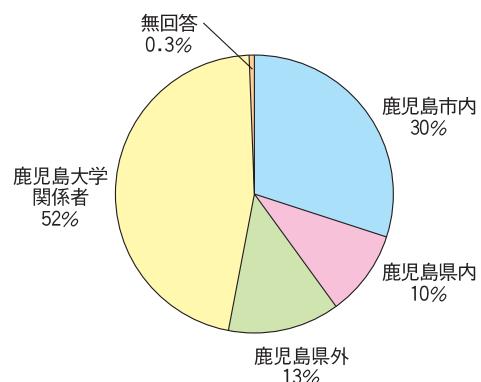
4) 理由

新聞	9名
テレビ	8名
たて看板	32名
ポスター	11名
JR広告	0名
市電広告	1名
当館のホームページ	10名
人におすすめられて	93名
その他	69名
無回答	21名

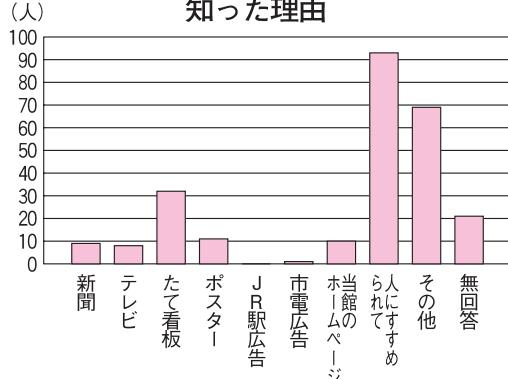
年代別入館者数



入館者居住地

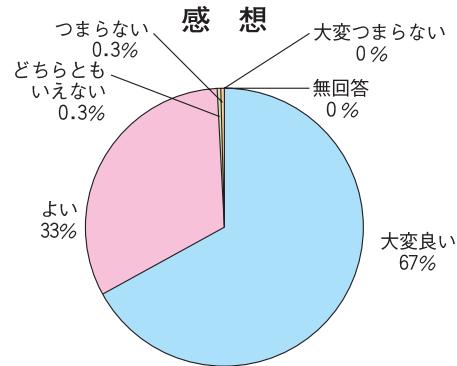


知った理由



5) 感想

大変よい	168名
よい	83名
どちらともいえない	1名
つまらない	1名
たいへんつまらない	0名
無回答	1名



6) 要望・意見

全体の感想

- ・ 貴重なものが拝見できまして有難うございます。
- ・ とてもすばらしかったです。 • もっと発展させてほしいです。
- ・ これから更なる充実を期待します。
- ・ 鹿児島人なのに知らない事が多かったので大変勉強になりました。 • また来ます。
- ・ 静かで良い。 • 博物館とはこういうものかというのが良くわかった。
- ・ 落ち着きのある雰囲気でよかったです。 • 更に大きくなって幅広い展示がされますように。
- ・ 約束の時間までに、と思い立ち寄らせて戴きましたが、なかなか興味深いものが多くございました。
- ・ 見やすくて良かったです。 • 大きくてすごい博物館になって欲しい。 • よかったです。
- ・ とてもおもしろかったです。 • 展示物がたくさんあり、とても見応えがありました。 • 特になし。
- ・ 珍しいものが多くて、興味深かったです。 • 楽しかったです。
- ・ ゆっくりと見学させていただきました。 • とてもおもしろかったです。 • わかりやすい。
- ・ かごしま検定の為の良い勉強になりました。 • 僕も掘りに行きたいです。呼んでください。
- ・ ずっと長く保存してください。 • 写真集はぜひ手に入れたいと思います。
- ・ 小さな博物館なのに、展示品はおもしろいものばかりなので、たのしかったです。
- ・ 昭和32農学部を卒業し久しぶりに来た。とてもなつかしくめずらしい物が見られた。
- ・ 落ち着いた雰囲気で、ゆっくり見学させて頂きました。もう少し内容の充実（拡充）があればもっと楽しみです。
- ・ 設備がきれいで、とても見学しやすかったです。たまたま通りがかっただけでしたが、勉強になりました。
- ・ 林学関係の資料が見当たらず、少し残念でしたが、無料で一般に公開していることは素敵だと思います。
- ・ 学内にこんな心落ち着くところがあったなんて。もつとはやくに知つていれば本当によかった。
- ・ 昔の感じがよくでている。来てよかったです。色々な化石などがあり、初めて見たものやさわったもの色々でした。心に残る経験でした。
- ・ 鹿大生だが、鹿大に博物館があることを知らなかった。初めて来たが珍しいものが見られて楽しかった。
- ・ 昭和32農学部を卒業し久しぶりに来た。とてもなつかしくめずらしい物が見られた。
- ・ クーラーがきいていてすずしかった。外に見える木が神秘な雰囲気で少しあまいがしました。
- ・ 周囲の環境もよく、静寂なので（考え方）精神安定によさそう。慌しい時の流れを長い時の中に置いてみるとより落ち着く。
- ・ 宮崎県の西都原にも博物館があり、とても好きなところなのですが、大学祭に来て、博物館を見学できるなんで感激です。鹿大に来た時は、また、見学したいです。

展示全般について

- ・ 展示物を増やして欲しい。 • もつといろいろおいてほしい。
- ・ 説明の文字が大きくて見やすくてよい。 • もっと博物館の規模を拡大したらありがたいと思っております。
- ・ 説明をもう少し詳しくしてほしい。
- ・ 資料がよく整理され、説明の掲示も読みやすいです。静かな館内でゆっくり見学させてもらいました。
- ・ 展示物をもっと色んなものを多くしてほしいです。 • 貴重な資料を今後とも大切に保存して下さい。
- ・ 音声ガイドの設置は可能ですか？ • 展示が良く整理されていて、文字も読みやすい。
- ・ 大学からこんな博物館ができるなんて素晴らしい。中国語の解説を入れて欲しい。
- ・ 見どころ（ポイント）を見やすいところに宣伝して。 • 企画展を定期的に多くして欲しい。

- ・ 映像などで紹介、解説する方法を取り入れたらどうでしょう。もっと具体的に分かりやすい展示になると思います。(社会人向けとして)

解説

- ・ 丁寧に学芸員に説明していただき、全く知らなかった鹿児島の歴史や自然がより興味をもつ事ができた。
- ・ ご説明いただきありがとうございました。 大学院生等の専門の案内があればよい。
- ・ 説明して頂いてとても良く分かりました。身近なところに遺跡があり、そこに生きているんだと思いました。
- ・ ていねいな説明を戴いて門外漢の私にもよくわかりました。有難うございました。
- ・ 詳しい説明を館長さんにしていただき、とても楽しくすごさせていただきました。ありがとうございました。
- ・ 大木先生にご説明をいただき感謝、感謝いたします。
- ・ 大木先生自らの説明を聞くことができたので、とてもおもしろかったです。とても居心地の良い博物館でした。
- ・ 展示品の説明が分かりやすかったです。地質や歴史、当時の環境とのつながりが理解できるような説明が（移り変わりなど）あるといいなと思います。私たちは大木先生の説明があったので、大満足でしたが、その興味深い話がパネルになっていたら他の来館者の方々も満足されると思います。
- ・ 親切に説明していただいて質問にも答えていただき良かったです。

展示内容

- ・ 郡元キャンパス地から、こんなにも多くのものが出土したなんて、すごいですね。
- ・ 鹿児島大学の歴史と鹿児島県の古代の事が分かり、鹿児島への理解が深まった。
- ・ 鹿大から色々発掘されたということを知らないでおどろいた。
- ・ 江戸時代の泥のおもちゃもかわいいかったです。 地球ってすごいなあ。 地球の歴史にふれた。
- ・ 島津藩（時代）とのつながりを少々記入して欲しい。例 造土館
- ・ 鹿大の発掘状況とかがわかって、おもしろかった。
- ・ 鹿大構内遺跡の遺物を実際に見ることができてよかったです。古墳時代の成川式の形式なども、よく観察できました。
- ・ 鹿大内で出てきた土器などあり、意外にとれるんだなと思いおどろいた。
- ・ 鹿大からも出土していることを知り、とてもおどろき、新たな発見ができる、きてよかったです。
- ・ 地層貼り付けは、どれかいつのものか説明があったら、もっとわかりやすい。
- ・ 大学キャンパスにとてもたくさんの中の遺跡があり驚いた。成川式土器について、学内に昔、川があったということについてなど職員の方に詳しく説明していただいたので、より楽しめた。
- ・ 大学のキャンパス内で発見されたものが、こんなにあって驚きました。
- ・ 比較資料があればもっとよい、須恵器、類須恵器（南東陶質土器）。
- ・ ただ、化石コーナーで三葉虫がなかったことは、少々残念であった。
- ・ 鉱物が分かりにくかったです。計算機は非常におもしろかったです。
- ・ 学校の地学で学んだものを実際に目に見てよかったです。 ストロマライトに感激しました。
- ・ ストロマライトの実物を初めて見た。 化石にさわれるるのは貴重。
- ・ 身近にさわったりできるものがあったので、嬉しかったです。
- ・ 触れていいモノが結構多いのが良かったです。 さわって楽しいし、雰囲気が最高。
- ・ もっと化石を展示して欲しいです。 昔には、あんな大きなアンモナイトがいたことに驚いた。
- ・ 豊富な展示品に驚きました。金鉱床の展示にも感激。 計算機をなおしてほしかったです。
- ・ どこまでさわっていい石が分からないところがありました。
- ・ 展示すべてとても参考になりました。写真等年代が明示できるものは、明白にしてくだされば有り難いです。
- ・ パネル「鹿児島の地形と地質図」をジオラマ仕立てにされるか、平面模型にしていただくと理解が更にすすむのではないかでしょうか。紀年代ごとに層の展示をされると一層よい。
- ・ 地学で習っていたものや写真でみたものがあり、その時代に触っているような気分でした。
- ・ 考古学以外の古生物学のアンモナイトなども見ることが出来て、よかったです。また来ます。
- ・ 地域の特徴を出した展示物（鉱物の標本や化石）はきれいで管理されていて、とても見やすかったです。
- ・ アンモナイトが大きかった。あんなに大きいのがあることに驚いた。
- ・ 地図のある石の展示がすごかったです。アンモナイトが大きくて、実物大なのかと思うと驚いた。でもさまざまな展示法だったので楽しく見ることができた。
- ・ 展示だけでなく、化石などに直接さわれる機会があってとてもよかったです。

- ・ 化石など手に触れることがでよかったです。　・ さわれる化石の名前が知りたい。
- ・ 地学の教科書の写真で見た化石や石を手でさわって生で見て感動でした。
- ・ 県内地学の断面みたいな（縦）分かりやすい見本があつたらと思います。
- ・ 古生物の化石のところに復元図があれば良かった。
- ・ 展示品が少ないようです。写真でも結構、スランプ構造、メランジ等。
- ・ 00期とか表示されていますが、今からどれくらい前かのプリントがほしい。
- ・ 2階のコーナーもおもしろい。貝類やサメの化石など、とてもきれいに残っていてすごいと思った。
- ・ 展示が充実していてよかったです。七高時代からの当校の歴史を感じられました。
- ・ 旧高農の建物はとてもよかったです。感触を味わいました。
- ・ 旧農学部講堂や七高、高等農林の「写真集」があれば尚ありがたい。郡元キャンパスが海だったり、海岸だった頃のスケッチ（想像図）もついでに如何ですか？
- ・ また、昔の計算機や顕微鏡も展示してありおもしろかったです。
- ・ タイプライターや計算器を実際にさわることができて、とてもおもしろかったです。
- ・ 大学の特徴が出ていてよいと思います。化石や土器、鉱石に触れるのがよいです。
- ・ 外見から予想していたよりも展示物が多様で、実際に触れる事もできてとても関心がわいた。
- ・ 展示物に触れるのがよかったです。　・ さわれるものがたくさんあった。
- ・ 実際に触れるものを展示してあるのがよかったです。手動の計算機は面白かった。土器に初めてふれることができた。

展示の要望

- ・ 生物関係の展示を増やしてほしい。　・ 恐竜の骨が見たかった。
- ・ 展示スペースに限りがあるかと思いますが、植物にかかる研究の豊かさをもう少しアピールしてもらえた良いなと思いました。
- ・ 鹿児島県を中心に東～東南アジアの動植物に関する企画展を今後続けてください。
- ・ 思っていたよりちゃんとしていてすごいと思った。もっと海（錦江湾）とか生物の標本も見たい。
- ・ 各学部の歴史や研究成果等も特設されたらよいのではないかでしょうか？
- ・ 七高の資料をパネルで展示するのは如何でしょうか？
- ・ 昆虫標本を展示して欲しいです。特にハネカクシ、ガの仲間を希望します。ここはとてもしづかでいいです。

広報

- ・ もっと存在をアピールするべきだと思った。
- ・ 引き続き、学外にPRを。　・ もっとたくさんの方に見にきてもらいたいと思います。
- ・ 広く広報活動を進めて下さい。県内外に向けて。　・ もう少し存在をアピールした方が良いと思う。
- ・ 外から入り易いようにしたら良いのでは。　・ もっと学生が見学するよう要案内。
- ・ ここに気付いたのが数日前で、よく通っていたのに気がつかなかった。
- ・ 大学に博物館がある大学は日本には少ないと聞きました。学生の中には博物館があることを知らない人もいると思うのでもっと学生達が足をはこぶようになってほしい。
- ・ クーラーがきいていてよかったです。ちょっと発見しづらい場所にあるのが残念だ。
- ・ もっとアピールしたらいいと思う。鹿大生も知らない人が多いのではないか。
- ・ この展示室を知らない人が多いのではないかと思います。石とか化石とか興味ある人に気楽に見て、意見、質問を受けられるようでしたら思っています。

館内施設 開館日

- ・ 設置スペースが狭いと思うが展示物が増えたらどうなるのか？　・ もっと広くしてほしい。
- ・ 館内がきれい。　・ 昔の外観を残して欲しかった。　・ 中の造りがとても綺麗で居心地がよかったです。
- ・ 空調もいい温度に設定されていたのでゆっくりと見物できました。
- ・ エレベーターが付いていて2階へ楽に上れるのがよかったです。スリッパでの階段の昇降は危険。
- ・ 入館時間を延長して、もっと一般の方たちに開放してほしいです。好きな方はたくさんいらっしゃるはず。
- ・ 土日も車で観にこられるようになれば、とてもうれしい。
- ・ 日曜日にも開館する日があると子供も来やすいと思います。　・ トイレが珍しい形になっている。
- ・ 日曜、祝日など社会人も見学できやすくして欲しい。　・ エレベーターがあつてびっくりした。

小学生の意見

- ・とてもよくて楽しかった。・はくぶつかんは、すごいです。・はぐ物館、きにいりました。
- ・また、きたいです。・とてもすばらしい。・すごいなとおもつた。
- ・とてもすごいでございます。・とてもわかりやすくて、はかせになりそう。
- ・もっと明るくしてほしい。・たくさんのものがてんじしてあって、とてもいいと思った。
- ・みたかんじくらい。・たのしい、おもしろい、はつけんいろいろ ゲッドラック。
- ・また、きてみたいです。・エレベーターがあって楽でした。・また来てみたいです。
- ・文字があってわかりやすかった。・ぼくはここが大好きです。・化石があってびっくりした。
- ・たくさんの物が展示されていてびっくりしたし、いろいろ知れた。・いろいろ展示されていてよい。
- ・昔の化石などがあってすごい。・アンモナイトがあってびっくりした。化石がさわれていいですね。
- ・少しうすぐらい。一人で歩くとこわい（少し）何か1つぐらい化石をさわってみたい。もっと明るくして欲しい。さわれるものが少ない。さわれるようセットしてあり、どういうかんじか、わかるからよかったです。
- ・かせきを自分でとれるようにしてほしい。・どこでとられたかなどが、かいてあるからわかりやすい。
- ・少し明るくしてほしい。体験コーナーみたいなのがあったらいい。・もっと化石をならべてほしいです。
- ・金や銀がきれいだった。・化石をさわれるコーナーの化石がすこしほろぼろだった。
- ・ほかの化石もとり入れてほしい。・さわれる化石のコーナーで魚の化石もおいてほしい。
- ・昔の物がたくさんあった。・いろんな化石があってすごい。・化石があってびっくりした。
- ・とてもいろいろな化石がある。・化石がさわれてうれしい。・いろんなてんじ物があつておもしろい。
- ・化石をさわれてとてもうれしかった。・化石がさわれたりして、とても楽しかった。
- ・いろんな物があり、さわれたりしたのでとてもいい。・なぜ、こんなに化石とかがあるのか。
- ・わたしたちも昔のことがよくわかる。・とてもむかしのかせきがみられてうれしかった。
- ・とても化石がきれいだ。・たくさんの物がかざってあってとてもいい。
- ・たくさんさわりたい。・いろいろあっておもしろかった。・昔のめずらしい物があった。
- ・化石がある。・いろいろな物があつてよかったです。・いろんな化石があつて。とてもわかりやすい。
- ・いろんな化石などがあつてすごい。・昔のものをもう少しだしたらいいと思います。
- ・いろんなものがおいてあっておもしろい。・ふるいのがいっぱいあってわかりやすい
- ・なぜ、こんなに石やコインなどがあるのか？・なぜこんなにたくさんあるのかすごい。
- ・いまではみられないのが、みられてよかったです。・みたこともないものがあった。
- ・数字が入っていても連乗用のつまみが動く手回し計算器を展示してほしいです。
- ・きれいなものがたくさんある。・化石もてんじしてると、化石のこともわかつた。
- ・とても楽しいところで、いろいろな物があった。・化石をさわれるでのたいへんよい。
- ・生き物のかせきをそつとさわってみたい。・きれいな貝がらなどがいっぱいあつた。

(5) ボランティア活動

今年度は、ボランティアの活動は常設展示室ではありません行われなかった。常設展示室での監視・展示解説などを希望されるボランティアがおらず、多くの方は資料整理、特別展など他分野で活躍されている。常設展示室は、いつもたくさんの来館者が観覧しておらず、来館者がいないことが多い。そのためボランティアも長時間誰もいない部屋で待つ状況になっている。

(6) 課題

開館して3年目となった。年間の入館者数は減少傾向にあるが、大学の授業での利用、博物館実習関係は定着し、大学以外の団体見学も高校のPTAをはじめ、遠方よりたくさんの来館者にお越しいただいた。一般個人の来館者からは、広報が足りない、知らなかつたといわれる方が多く、いつ開館しているのか、大学関係者以外、一般客が自由に見学できるのかと、しばしば質問を受ける。地域の公共博物館とは違い、大学の施設だろうから、予約した個人または団体客に公開していると思われる方が多い。どなたでも利用できる施設であることを広報していく必要があるだろう。

また、入館者の要望では、たくさんの展示をみたいという声が多く寄せられている。スペー

ス的に展示数が限定されてしまうのが現状である。将来的な常設展示の充実のため展示室の拡張は必要であるが、限られたスペースでの利用をどのように展開していくのか、常設展示の魅力を最大限に見出す努力を続けなければなるまい。

最後に設備面であるが、常設展示室では館内保護と展示室内の静穏のため、来館者にスリッパに履き替えていただいている。当館内はとてもよく音が鳴り響くため、特に音のしないようスリッパの裏はフェルト状のものを使用している。スリッパでの観覧は靴のコソコソした音が響かず、静かに観ていただくために有効である。しかし、履き替えの不便さや団体客の入館の際には履き替えに多くの時間を要したり、幼児のスリッパの安全度、また、多くの来館者が使用されるところから、衛生面を気になされる方もみられる。来館者に気持ちよく展示を観ていただけるよう、館内環境を考えていきたい。

(7) 国登録有形文化財に登録

常設展示室は1928（昭和3）年建築の鹿児島における初期鉄筋コンクリート建物であり、学校施設としてももっとも古い歴史的な価値を持っている。そこで2006年6月に国文化審議会から文化庁に登録有形文化財とするように答申が出され、2006年10月18日に国登録有形文化財となった。

2007年3月には、登録証およびプレートが総合研究博物館に届けられた。これを記念して常設展示室前にはプレート台を設置し、本建物の価値を表示するとともに、3月26日には設置記念式典を行っている。



7 地域貢献事業「鹿児島フィールドミュージアム」

2003年度、2004年度文部科学省「地域貢献特別支援事業」の生涯学習プロジェクトに、鹿児島大学総合研究博物館の立案した「鹿児島フィールドミュージアム構築」が採択され、7自治体（姶良町歴史民俗資料館；伊仙町教育委員会社会教育課；指宿市考古博物館；郡山町（現在は鹿児島市）教育委員会社会教育課；知名町教育委員会生涯学習課；西之表市種子島総合開発センター；南種子町教育委員会社会教育課）と連携して、生涯学習に活かす自然環境や歴史的背景、人材等のデータの再評価、位置付け、保存方法等に関して様々な取り組みを行ってきた。2005年度以降は予算がつかず、最低限の活動にとどまったが、2005年度には3自治体（阿久根教育委員会生涯学習課；知覧町ミュージアム知覧；枕崎市文化資料センター南溟館）が新たに加わり、連携自治体は10になった。

2006年度の取り組みとして、学長裁量経費を得て専門職員を2ヶ月間雇用し、鹿児島県の自治体と連絡を取り、自治体が発信している文化財に関するホームページとのリンク化や、鹿児島県下の自治体、NPO団体、博物館施設（博物館、美術館、科学館、歴史資料館、水族館等）とのホームページによる連携を進めた。一方でフィールドミュージアムのノードの紹介を兼ねる著書の執筆、講演を行い、文化財の調査等を行った。また民間の資料館（例えば串木野金山蔵）と連携し、展示に関するアドバイスを行うとともに、ひとつのノードとして施設を活用し、イベントや勉強会を行った。

8 教育活動

（1）共通教育「博物館へのいざない」

2004年度から総合研究博物館専任教員で共通教育を担当している。この講義は大学博物館の存在を紹介するとともに、その役割や意義について説明することを目的としている。また、広く博物館学の入門的な内容も備えており、学芸員の資格や仕事について知る機会ともなるよう企図している。

講義は前期15回で、教員4人で分担して行っている。また授業は公開授業としており、学生以外の受講者も手続きを行えば受講できるようになっている。

この講義は、博物館、とくに大学博物館への関心と理解を深め、学習や研究において有効に活用するための手がかりを提供することを目的とします。

国内外の数多くの博物館では、さまざまなモノがを集められ研究の対象となり、また展示などを通じて公開されています。なかでも、教育・研究の資料やその過程を蓄積する大学博物館は多くの諸外国においては大学に必須の施設と位置づけられていますが、日本ではその意義への認識が低く、きわめて数が限られています。

鹿児島大学総合研究博物館は日本では8つしかない国立大学の総合博物館の一つです。この講義では大学博物館の特徴や業務との関わりを通して、標本・資料や文化財の意義、博物館の必要性、役割、現状などについて解説します。

さらに総合研究博物館各教員の研究分野の標本資料の収集・保存・利用などについて具体的な事例から、その意義やおもしろさを説明します。

【講義の目的】

- ・博物館、とくに大学博物館への関心と理解を深める。
- ・博物館の意義と役割について理解する。
- ・学習や研究における博物館の活用について理解を深める。

【大木公彦 1～3回】

- 1) 序 博物館へのいざない
- 2) 日本の博物館・外国の博物館・大学博物館
- 3) 地球の過去・現在・未来を知る：標本の重要性

【落合雪野 4～7回】

- 4) 有用植物学ことはじめ—毎日の暮らしから考えよう
- 5) ものと情報の収集 (1) 現地調査
- 6) ものと情報の収集 (2) 植物園と標本庫
- 7) 鹿児島の食文化と植物

【橋本達也 8～11回】

- 8) 博物館学的に博物館を考える
- 9) 文化財保護と博物館
- 10) 考古学の考え方—モノから歴史を考える—
- 11) 考古学と博物館—発掘調査・整理作業・資料活用—

【本村浩之 12～15回】

- 12) 動物の進化と分類—理論と標本の重要性
- 13) 魚類分類学と世界の博物館
- 14) 魚類分類学とフィールド調査
- 15) 鹿児島の魚

(2) 共通教育「学芸員の業務と役割－文化のプロデューサー」

2006年度から共通教育教養科目として、全学部生を対象とした「学芸員の業務と役割－文化のプロデューサー」を開講した。講師は、県下の博物館施設（かごしま水族館；姶良町歴史民俗資料館；輝北天球館；尚古集成館；鹿児島県歴史資料センター黎明館；鹿児島市立美術館）で活躍する6名の学外非常勤にお願いし、博物館施設に勤務する学芸員にしかわからない業務、その役割について講義していただいた。開放科目としたことから、36名の受講者の内、学外から社会人5名が受講した。

【講義の目的】

教育研究に使用された資料や標本の重要性と、それらをどのように管理し、さらに進んだ活用のあり方があるのかを理解させることをこの授業の目的とする。この授業を通じて文化財の保護や環境保全について、具体的にどのような行動が必要かを考えさせる。

- 1) 大木 公彦（鹿児島大学総合研究博物館長）：博物館等施設とそこで働く学芸員の役割
- 2・3) 萩野洸太郎（かごしま水族館 館長）：教育施設としての水族館、水族館と社会貢献
- 4・5) 下鶴 弘（姶良町歴史民俗資料館 文化係長）：地方における歴史資料館の役割や市町村における文化財保護行政の現状
- 6・7) 西井上剛資（輝北天球館 館長）：生涯教育施設としての公開天文台、身近な星空
- 8・9) 松尾 千歳（尚古集成館 文化財課長）：リニューアルオープンした尚古集成館の展示—その準備からオープンに至るまでの過程と文化をプロデュースする意味
- 10・11) 山下 廣幸（元鹿児島県歴史資料センター黎明館 企画普及課長）：県立博物館の活動と美術工芸担当学芸員の業務
- 12・13) 山西 健夫（鹿児島市立美術館 学芸係長）：美術の意味を伝える学芸員の活動、絵画の保存と展示
- 14・15) 大木 公彦：大学総合博物館の業務と役割

(3) 博物館実習

鹿児島大学では法文学部と教育学部において、博物館学芸員資格取得に関する博物館館務実習に関する単位を取得できる。これまで、館務実習は県内各博物館・美術館において行ってきているが、受け入れ館の諸般の事情により単位取得に必要な実習規定日数に達しない事例が出るようになってきている。それを補うことを目的として総合研究博物館においても夏季休暇中に実習を行っている。

2006年度は、地質学・魚類分類学・植物分類学・美術に関する実習を各3時間、考古学に関する実習を6時間行った。

地質学 8月9日(水)の午前中に大木が担当し、法文学部7名、教育学部2名、計9名の実習生に、総合教育研究棟の講義室を使い、アンモナイトを中心とした貝化石標本の整理、標本ラベルの書き方の実習を指導した。

魚類分類学 8月9日の午後は本村が担当し、総合研究博物館魚類標本作製マニュアル(ニュースレターNo. 16に掲載)に従って、標本の作製を行った。標本の作製、撮影、同定、登録、固定の一連の作業を実際に体験し、実習生は博物館における標本資料管理の重要さと大変さを実感したようであった。

植物分類学 8月10(木)午前、落合が担当し、総合研究博物館の植物標本庫を利用し、植物標本の作成法・維持管理の技術からその意義に関する基礎知識の講習を行った。

美術 8月10日午後、教育学部 下原美保 助教授が担当した。広報用のポスターづくりの基礎について学んだ後に、実際に参加学生自身で、常設展示室の広報イメージポスター作成を行った。

考古学 8月11日(金)、橋本と法文学部 本田道輝 助教授が担当し、考古学に関する実習を行った。橋本は午前、写真に関する基礎的な実習を行った。カメラの構造、いろんな光の条件による写真撮影の基礎について解説したのち、実際にカメラをもって屋外に出て、いろんな条件を確認しながら、写真撮影を行った。マニュアルによるフィルム撮影を前提に実習を行ったが、実際の撮影はデジタルカメラで行い、室内に戻ってパソコン上でその撮影結果の確認を行い、写真撮影時の注意点の確認を行った。

本田氏は午後、考古学資料の整理における基本であるマーキング(注記)の実習を行った。資料は博物館で保有する諒訪考古資料を用い、一点一点土器にナンバーをつけて行く作業を行った。この作業によって、資料の整理時における混乱をなくし、収納や移動などの管理が円滑に行えることを学んだ。

(4) インターンシップ

鹿児島県教育委員会より依頼があったインターンシップの受け入れを行った。これは、産業界と教育界が連携して中・高校生のためのインターンシップを全県的に実施し、勤労観・職業観の育成を図るとともに、高校や大学進学後の学問の意義を体験的に自覚させ、学習意欲の向上を図ることを目的とした「未来を拓くキャリア教育推進事業」の一環である。

8月2日(水)から4日(金)までの3日間、鹿児島工業高等学校の生徒1名と鹿児島東高等学校の生徒3名を受け入れた。初日は大木が担当。大学博物館の役割をテーマに、常設展示室の見学と、大学の教育研究で使用された資料・標本の整理・登録を実習した。2日目は本村担当。博物館における標本の保存と管理をテーマに、地元で採集された魚類の標本作製、撮影、登録作業を行った。3日目は落合が担当。博物館の「伝える」仕事をテーマに、展示内容や資料の意味をどのように伝えたたら来館者の理解を助けられるのか、アジア各地のもの資料を例に、展覧会の解説シートを作る体験学習を行った。福元と博物館ボランティアはインターンシップの実習補助を行った。3日間のみの実習であったが、参加者は博物館の日常的な業務を体験できたと思う。



9 出版・広報

2006年度の主な出版物は、ニュースレターNo.14・15・16であった。

ニュースレター ニュースレターNo.14では、日本学術振興会特別研究員（PD）で総合研究博物館に所属する江口克之氏にアリの研究における画像処理技術、総合研究博物館・落合がラオスで開催した「トラベリングミュージアム」として進める移動展覧会についての報告、総合研究博物館・本村が塚脇真二氏（金沢大学自然計測応用研究センター助教授）と進めるカンボジア・トンレサップ湖の魚類調査について紹介した。

ニュースレターNo.15では、総合研究博物館・橋本が8～9月に実施した曾於郡大崎町 神領10号墳での発掘調査の成果の速報、で掲載した。また10～11月に実施した特別展「発掘！鹿児島の古墳時代」の展示企画とその反省・課題について報告した。

ニュースレターNo.16では、総合研究博物館・本村を中心にボランティアの方々と進めている鹿児島の魚類標本コレクションの形成について紹介した。その活動の意義からのほか、実際にどのような標本が得られているかをボランティアの方々自身で解説している。

ポスター・チラシ 第6回特別展「発掘！鹿児島の古墳時代」にあわせて、展示案内用のB2版ポスターを作成し、学内各所および他の博物館、教育委員会などに送付し、掲示を依頼した。また、鹿児島市内を走る路面電車の吊り広告用にB3版ポスターを作成し掲示を委託した。

絵はがき 特別展では展示に関連する写真を用いた絵はがきを5種類作成し、来館者に好きなものを1枚ずつプレゼントした。

また、常設展示室の広報・配布用として、常設展示室と学内各所の風景写真を織り交ぜた絵はがきを5種類作成している。常設展示室来館者に2枚ずつ配布している。

10 ボランティア活動

2005年に引き続き、博物館業務のうち人員を要するものについて作業を円滑に進める目的でボランティアの募集をおこなった。前年度より活動を継続していただいた方も含めて総勢29名が参加した。

(1) 常設展示室に関わる業務の補助

団体の見学者がある際、展示室の案内補助および監視の補助を行った。

大学祭期間中の11月11日(土)・11月12日(日)に展示室の案内と監視の補助を行った。

(2) 第5回特別展に関わる業務の補助

会期中（10月17日～11月17日）の案内係補助および監視の補助として、2名ずつ1日5交代で担当した。

(3) 考古学資料の整理

学生・社会人ボランティア5名を中心として、諫訪考古資料の洗浄・註記作業、岡崎古墳群・奥山古墳・神領10号墳出土土器の洗浄・註記・接合作業を行った。その成果は第6回特別展での展示資料に生かされている。

また、学術協力として肝属郡肝付町 塚崎31号墳出土の須恵器甕2個体を出土時の破片状態で預かり、橋本指導のもと社会人ボランティアが中心となってその接合作業を行った。資料は接合終了後、実測作業、写真撮影まで総合研究博物館で行った後に、肝付町へ返却している。



(4) 魚類標本の作製

総合研究博物館では本年度から魚類標本の受け入れおよび標本の作製を積極的に行っている。標本の作製、登録、管理をするボランティアをポスターや新聞などで公募し、約20名のボランティアが週1～2回の活動を行った。ボランティアは本学学生、一般市民、漁業従事者、水族館職員など多彩な構成である。ボランティアの活動は、大きく分けると魚類の採集、学習会、標本の作製と保存、および教育啓蒙活動の4つの要素から成る（詳しくは総合研究博物館ニュースレターNo. 16を参照）。本年度は約5000標本の登録を行い、標本データのデータベースと、10000件の画像データベースを作成した。平均すると本年度は1日13件以上のデータを入力、標本を登録したことになる。本年度は総合研究博物館の運営経費の他に、外部資金約100万円を獲得し、魚類標本管理のために使用した。

(5) 学習会等

ボランティア間の交流をはかり、なおかつ博物館企画行事へ向けての研鑽の場として、ボランティア学習会を行っている。とくに、2006年度は10月からの特別展に向けて、鹿児島の古墳時代に関する学習会を橋本が主導し10回行った。

そのほか、鹿児島大学学生部学生生活課主催の学内ボランティア交流会に参加し、活動内容の発表を行った。

11 標本管理活動

(1) 植物標本室

2006年度に植物標本とその収蔵標本に関しておこなった主な活動を以下に報告する。

1) 標本室の移動

本館では、2001年の移管以来、植物標本約14万点を農学部1号館1階植物標本室で保管してきた。ところが1号館の改修工事に伴い、植物標本室を移動させる必要が生じた。移動の結果、植物標本を農学部6号館2階209室と総合教育研究棟4階404室に分散して保管することとなった。本稿では、植物標本室移動の経緯について記録するとともに、移動に関連して生じた課題を指摘しておきたい。

最初に、植物標本室公開の一次的な中止を決定し、本館ホームページでこのことを利用者に告知した。

準備段階では、まず、移動先に指定された部屋の大きさや構造を検討し、ケースを収納する棚の確保や、ケースの配置について業者をまじえて検討を行った。移動後は複数の部屋に分けて植物標本を収納する必要がある。とくに209室は室内が3つの区分に分かれている。ケースをどのように配置するのか、標本の利用しやすさを確保しつつ、物理的な条件とすり合わせるために何度も検討を重ねた。ただ、工事関連情報の提供が遅れることが多く、またその内容がしばしば変更するなど、対応に苦慮する面があったことは否定できない。また、作業分担を調整するという点でも、トラブルが生じることもあった。円滑に移動を進めるためには、情報の共有が重要であることを痛感した。

実際の移動作業は、9月4日から8日にかけておこなった。作業担当の業者にはケースの持ち運びの際、中の標本を破損することのないよう、細心の注意を払うことを伝達した上で、次のように作業を進めた。

最初に、すでに室内にあった棚を再利用することになった209室A区分に、被子植物の先頭にあたるケース1から207までを運び込んだ。旧標本室に設置していた棚は、ケースを収納するための専用の棚であったので、空いた棚を切断してサイズを調整し、209室B区分に設置した。ここに裸子植物とシダ植物とコケ類のケース124個を運び込んだ。さらに、209室C区分にダンボールに入った未整理標本を移動させた。ケースの棚への収納に当たっては、通し番号どおり

に順序たやすく収納することが絶対必要である。このため、あらかじめ棚に目安となる番号を貼り付けておくなどの工夫を行なった。

次に、旧標本室に開いたスペースを使って、被子植物のケース662個を一次的に床に置いた。そのうえで、開いた棚を切断してサイズを調整し、404室に移設した。ここにケース662個に運び込んだ。そして、閲覧用の机、書籍、顕微鏡、フォルダーやシート類などを202室、404室に移動させた。最後に、エアコンなどの空調設備を移設、調整して一連の作業を終えた。

移動によってできあがった、新たな植物標本室の配置は以下の通りである。

位 置	ケ ース 数	番 号	内 容
農学部 6号館 2階	209室 A 207個	1~207	被子植物(1) Acanthaceae~ Cyclanthaceae
	209室 B 124個	870~892 901~1000 1	裸子植物 シダ植物 コケ類
	209室 C		未整理標本など
総合教育研究棟 4階 404室	662個	208~869	被子植物(2) Cyperaceae~ Zygophyllaceae

部屋の構造上209室では標本の閲覧ができないため、同じ階にある202室を閲覧のための場所として準備した。また、データベース入力用作業については、404室で継続することとした。

このような経緯により、ケース993個を収納し、植物標本を利用できる環境を確保することができた。だが、次のような課題が残っている。

まず、植物標本室の基本的な環境条件である気温20度、湿度50%を維持することが難しい。カビや虫害の発生が心配される。つぎに、分類群によって保管場所が離れていることは、標本を閲覧する上で大変不便である。また、209室に保管してある標本は、いったん部屋を出て、202室に持っていくって閲覧しなければならない。これは、植物標本の破損を最小限にとどめるうえでも、また利用者の利便性を考える上でも、大きな問題である。また、現在所蔵している植物標本は保管できても、追加があった場合には保管が難しい、標本を作成、手入れ、データベース入力するための作業スペースが十分に確保できないなど、絶対的に面積が不足している点も指摘できる。

つまり、現在の総合教育研究棟404室、農学部206室での保管、公開はあくまで一時的なものなのである。今後、恒久的に標本を保管、公開、活用できる専用の収蔵スペースを確保することが、植物標本の維持管理と活用のための急務である。

2) データベースの構築と公開

前年に引き続き、岩井雄次技術補佐員が担当して、ラベルデータの入力作業をおこなった。その結果、2006年4月から2007年3月までの間に、キク科の一部、スゲ科全部の6122件を入力することができた。これにより、入力済みデータの総数は21220件となった。また、鹿児島大学学術情報基盤センターの森邦彦教授、佐野英樹准教授の支援のもと、データ情報を本館ホームページ上で公開するサービスを継続した。

2007年1月30、31日に落合が首都大学東京の牧野標本庫を訪問し、加藤英寿助教の指導のもと、画像入力システム（通称MAKスキャン）を活用したデータベース入力作業について実地研修を行なった。そのうえで、加藤助教が開発したラベルデータ入力システムとともに、画像入力システム一式を導入することを決定、その準備としてデスクトップ型パソコン1台を導入

した。これは、科学研究費補助金・研究成果公開促進費（データベース）課題番号17808「日本タイプ標本データベース」によるものである。

(2) 脊椎動物標本の利用状況

2006年度の総合研究博物館所蔵脊椎動物標本・資料の利用状況を報告する。学内での利用数は膨大であるため除く。

貸出・利用年月	分類群	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
2006年4月	哺乳類	化石レプリカ	8	鹿児島県立博物館	化石展「よみがえれ太古の生きものたち」のレプリカ作製
2006年4月	魚類	液浸標本	1	東北区水産研究所	研究
2006年4月	魚類	液浸標本	1	Queensland Museum, Australia	研究
2006年4月	魚類	液浸標本	1	Australian Museum, Australia	研究
2006年5月	魚類	標本画像	4	かごしま水族館	ボランティア水槽「かごしまに生息する外来の魚たち」の解説パネル
2006年8月	爬虫類	骨格と剥製	20	岡山理科大学	研究
2006年8月	魚類	液浸標本	2	宮崎大学	研究
2006年11月	魚類	液浸標本	11	CSIRO, Australia	研究
2006年11月	魚類	液浸標本	10	CSIRO, Australia	研究
2006年12月	魚類	標本画像	6	かごしま市民環境会議	鹿児島市市民ギャラリー写真展「永田川の生き物たち」
2007年1月	魚類	液浸標本	2	三重大学	研究
2007年2月	魚類	標本画像	2	金沢大学・早稲田大学	社団法人東京地学協会 2007年海外巡検案内書
2007年2月	魚類	液浸標本	2	三重大学	研究
2007年3月	魚類	液浸標本	8	かごしま水族館	10周年記念特別企画展 「鮫世界～その魅力に迫る～」公開解剖
2007年3月	哺乳類	骨格標本	3	大阪府立近つ飛鳥博物館	古墳時代馬骨格模型作製

(3) そのほかの資料の活用状況

2006年度の総合研究博物館の考古、地学、教育・研究史等資料・標本の利用状況を報告する。

利用年月	標本・資料	数	貸出・利用先	目的
2006年4月	教育・研究史資料	1	鹿児島大学医学部保健学科	歴史資料調査
2006年5月	古建築図面	34	(株)武田設計事務所	修復設計資料
2006年6月	常設展示室内	1	KTS鹿児島テレビ	ニュース番組放送
2006年7月	哺乳類レプリカ	3	学外協力研究者	研究
2006年7月	化石、写真	28	宮崎県総合博物館	化石展「わくわく・ドキドキ化石展～よみがえる宮崎の古代生物たち」
2006年7月	考古資料（奥山古墳出土遺物）	15	南さつま市教育委員会	歴史交流館金峰第1回企画展「古代のかせだ」
2006年8月	哺乳類レプリカ	2	学外協力研究者	研究
2006年8月	常設展示室写真	3	(株)彰国社	『建築博物館見どころガイドブック』掲載
2006年10月	化石	69	国立科学博物館地学研究部	研究
2006年10月	古建築資料	1	九州産業大学工学部	研究

2006年10月	教育・研究史/理科機器	17	有限会社神山プロダクション	映画「北辰斜めに」に使用のため
2006年10月	古墳出土状況写真 (神領10号墳)	1	鹿児島県大崎町	大崎町広報誌
2006年11月	考古資料 (神領10号 墳出土埴輪)	1	鹿児島県大崎町	「2006大崎町施行70周年 ふれあいフェスタinおおさき」における特別展 『鹿大ジャーナル』174号 に掲載
2007年1月	常設展示室外観写真	1	鹿児島大学総務課	「生涯学習推進大会」における特別展 研究
2007年2月	考古資料 (神領10号 墳出土埴輪)	1	鹿児島県大崎町	「生涯学習推進大会」における特別展 研究
2007年2月	考古資料 (神領10号 墳出土埴輪)	1	福岡県春日市役所	『鹿大ジャーナル』174号 に掲載
2007年3月	考古資料 (岡崎古墳 群・神領10号墳出土 遺物)	27	宮崎県立西都原考古博物館	特別展「巨大古墳の時代」 における展示

(4) 水産学部甲殻類標本

水産学部助教授 大富 潤氏より、鹿児島湾で採集された節足動物の大型甲殻類（エビ、カニ、シャコ、ヤドカリ）合計126点、鹿児島大学大学院連合農学研究科水産資源科学専攻 博士課程の永田理雄氏よりガザミほか11点が総合研究博物館へ寄贈された。ただちに標本に対して博物館登録番号を付し、登録、保管、することとなった。

(5) プレカンブリアン試錐コア

12月26日に、兼務教員の根建心具氏がNASAとの共同研究でオーストラリアにおいて掘削したプレカンブリアンの地層の試錐コアの寄贈を受けた。約30億年前の海水の成分を明らかにするために掘削されたコアで、極めて貴重なコアである。また、2007年3月30日に、南種子町が発注し、(株)日本地下技術が南種子町大浦で掘削した最終氷期以降の地層のコアの寄贈を受けた。このコアは、マングローブの自生する大浦川河口近くの湿地帯で掘削が行われており、湿地帯の変遷を明らかにできる貴重なコア標本として当博物館に保管し活用させていただく予定である。

12 2006年度 専任教員の活動業績

大木公彦 [教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「博物館へのいざない」一部担当
共通教育科目「学芸員の業務と役割 – 文化的プロデューサ」担当

2) 専門教育

理学部学芸員関係科目「博物館資料論」
理学部地球環境科学科専門科目「地球環境科学 2」一部担当
理学部地球環境科学科専門科目「海洋地質学」
理学部地球環境科学科専門科目「地層学・古生物学実験」一部担当
水産学部水産学科専門科目「海洋地形地質学」
大学院理工学研究科博士前期課程「環境地質学特論」
大学院理工学研究科博士後期課程「微古生物学特論」

3) その他

博物館実習
インターフィップ

(2) 研究活動

1) 研究論文（査読付）

Tomiyasu, T., Matsuyama, A., Eguchi, T., Fuchigami, Y., Ōki, K., Horvat, M., Rajar, R. and Akagi, H., 2006, Spatial variations of mercury in sediment of Minamata Bay, Japan. Science of the Total Environment, no. 368, 283–290.
Bodergat, A., Ōki, K., Rio, M. and Tabarant, M., 2006, Taxonomic units, civilization, volcanism: Their influence on the chemical composition of ostracod carapaces (Kagoshima Bay, Kyushu Island, Japan). Marine Biology Research, no. 2, 316–325.
内村公大・大木公彦・古澤 明、2007、鹿児島県八重山地域の郡山層の層位学的研究。地質学雑誌、113 (3)、95-112.

2) 学会発表

Oki, K., Rifardi and Tomiyasu, T., 2006 (27, Aug. - 1, Sep.): Relationship between sediments, benthic foraminifera and mercury in the South Yatsushiro Sea, Kyushu, Japan. 17th International Sedimentological Congress, Fukuoka, Japan.
内村公大・大木公彦・古澤 明、2006、鹿児島県北薩地域に分布する後期新生代の湖成層に関する層位学的研究。日本地質学会第113年学術大会、高知大学（9月17日）大木公彦・岡師聖士・富安卓滋、2007、水俣湾・南部八代海に排出された水銀の現状と底生有孔虫の動向に関する予察的研究。MRC（微化石リファレンスセンター）研究発表会、北海道大学（3月1日）

(3) 外部資金

競争的外部資金（代表者：間接経費を含まないもの）

科学研究費補助金 基盤研究 (B) 17340155 「水銀汚染指標としての底生有孔虫群集変化に関する研究」

競争的外部資金（分担者：間接経費を含まないもの）

科学研究費補助金 基盤研究 (B) 15404003 「人為的活動により環境中に放出された水銀の挙動とその周辺環境への影響評価」

奨学寄付金

総合研究博物館研究助成金（学外協力研究者：稻田 博）
「シラスの地質学的基礎研究 200,000円」

(4) 社会貢献

- 1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等
日本地質学会代議員
日本地質学会西日本支部幹事
鹿児島県文化財保護審議会委員
鹿児島県立博物館協議会委員
鹿児島県環境影響評価専門委員
財団法人鹿児島県環境整備公社評議員
- 2) 公的機関における研究指導・授業・共同研究等
放送大学客員教授
熊本大学非常勤講師
熊本県立大学非常勤講師
- 3) 公開講座等講師
2006. 5. 25 第14回環境自治体会議：第4分科会（自然環境）「観光地としての自然開発はどこまで許されるか」、指宿市市民会館
2006. 5. 27 みんなの集成館講座「仙巖園 石なんでも鑑定団」、鹿児島市吉野町仙巖園
2006. 5. 28 重富海岸の未来を考えるシンポジウム「重富海岸沖の海底堆積物から環境変化を知る」、環境教育NPO法人くすの木自然館主催、姶良町脇元地区公民館
2006. 6. 2 スーパーサイエンスハイスクール事業 錦江湾洋上体験学習「錦江湾のなりたち」、鹿児島県立錦江湾高等学校、錦江湾洋上の貸し切り船上
2006. 6. 7 一水会例会「かごしまの自然を世界へ」、南国殖産株式会社会議室
2006. 8. 3 平成18年度文化財研修講座「鹿児島の自然について～天然記念物を中心に～」鹿児島県教育委員会、鹿児島県歴史資料センター黎明館講堂
2006. 8. 6～8. 7 かごしま検定シニア受験対策セミナー「自然」、鹿児島商工会議所主催、KCプラザ・ホール
2006. 8. 12 南九州出版フェア・関連イベント「かごしまの自然を世界に」、南九州出版協会主催、ブックジャングル特設会場
2006. 9. 3～9. 4 かごしま検定マスター受験対策セミナー「鹿児島の自然；マスター検定にむけて」、鹿児島商工会議所主催、KCプラザ・ホール
2006. 9. 10 放送大学学生研修旅行「冠岳の自然と文化および金山の歴史」、放送大学鹿児島学習センター主催、冠岳・薩摩金山蔵・三井串木野鉱山(株)
2006. 9. 12 火曜の海例会「かごしまの自然を世界に」、火曜の会主催、鹿児島市サンエール
2006. 9. 23 第3回薩摩金山私学校講座「串木野金山探検」、薩摩金山私学校主催、三井串木野鉱山(株)・薩摩金山蔵
2006. 9. 24 放送大学学生クラブ研修旅行「鬼の洗濯板は如何にして形成されたか」、放送大学学生クラブ主催、宮崎県青島
2006. 11. 4 上野原縄文の森 第16回企画展記念講演会「縄文海進と錦江湾の考古学～6,000年前の地球温暖化～」、鹿児島県縄文の森展示館内多目的ホール
2006. 11. 13 鹿児島県立加治木高等学校出前講義「加治木が海だった頃、湖だった頃のお話」、鹿児島県立加治木高等学校
2007. 3. 13 温泉を知る泉歩ジウム「鹿児島に温泉はなぜ湧くの？」、(社)鹿児島県観光連盟/NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会主催、中原別荘
- 4) 調査指導・協力
2006. 7. 22～9. 3 宮崎総合博物館「化石展」の展示指導、宮崎県教育委員会
2006. 12. 13 鹿児島市立ふるさと考古歴史館整理作業（地質分析）の指導、鹿児島市教育委員会
2006. 12. 18 仁田尾遺跡整理作業に伴う出土石器の指導、鹿児島県立埋蔵文化財センター

(5) 報道関係

(新聞論説)

大学が求める人間像「自ら考える力を」、論説。鹿児島県PTA新聞5月号。2006.4.20
「九州周辺 島がなぜ多い：列島分離時の力が集中」元日に特集される。朝日新聞特別号。2007.1.1

その他、専門に関する新聞・テレビ取材を4回受け、講演等の内容を4回紹介される。

落合雪野 [助教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「博物館へのいざない」担当

2) 専門教育

農学部科目「民族植物学」担当

農学研究科科目「民族植物学特論」担当

3) その他

インターンシップ

博物館実習導

(2) 研究活動

1) 研究論文（査読なし研究報告等）

落合雪野(2006a)「植物利用文化の継承と復興—台湾現地調査ノート」多島研だより50:1-2.

落合雪野・横山智 (2006) 「『有用植物村落地図』をもとに考える空間認識と植物利用—ラオス北部の事例から」 総合地球環境学研究所 研究プロジェクト4-2編 『総合地球環境学研究所 研究プロジェクト4-2, 2005年度報告書』 総合地球環境学研究所, pp.95-107.

落合雪野 (2006b) 「植物からものへ、ものから資料へ—ジュズダマ・コレクションの成立と公開」『研究彙集特定領域研究「資源の分配と共有に関する人類学的複合領域の構築」自然資源の認知と加工研究班報告』17号4-12.

落合雪野 (2006c) 「雑穀」秋道智彌編『図録メコン河の生態史』弘文堂32-33.

2) 学会発表

Yukino OCHIAI "Multiple uses of Job's tears (Coix, Gramineae) in mainland Southeast Asia" 2006年6月7-8日 47th annual meeting of Society for Economic Botany, 2006 (メーサンホテル、チェンマイ市、タイ)

落合雪野「フィリピン、ミンダナオ島のティボリ人によるジュズダマ属植物の利用—観光開発とハンディクラフトをめぐって」 2006年6月18日 第16回日本熱帯生態学会年次大会（東京農工大学、府中市）

落合雪野「学ぶプロセスとしての展示—第5回特別展のこころみ」 2006年6月23日 第1回博物科学会（北海道大学、札幌市）

Satoshi Yokoyama and Yukino OCHIAI "Forest Use and Indigenous Eco-knowledge in Northern Laos" 2006年7月4日 IGU (International Geographical Union) 2006 Brisbane Conference(Queen's land University of Technology, ブリスベン、オーストラリア)

Yukino OCHIAI, "Shifting agriculture and millet cultivation in southern Chin State, Myanmar". 2006年9月23日 International Workshop On Shifting Agriculture, Environmental Conservation and Sustainable Livelihoods of Marginal Mountain Societies (NIRD-NERC、ゴーハティ市、インド)

(3) 外部資金

競争的外部資金（分担者：間接経費を含まないもの）

科学研究費補助金 基盤研究B(1)6402003「ミャンマー少数民族地域における生態利用と世帯戦略」代表者、速水洋子教授（京都大学東南アジア研究所）

競争的外部資金（分担者：間接経費を含まないもの）

科学研究費補助金 基盤研究B 18380132「文化としての農業と地域社会における生物資源の存続に関する比較研究」代表者、末原達郎教授（京都大学大学院農学研究科）

競争的外部資金

トヨタ財団平成18年度研究助成「助成金が活きるとは」(D06-J-025)「もの資料をメディアに『経験』と『思い』をわかちあう手法の開発—トラベリング・ミュージアムによる実践」

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職、委員会委員等

鹿児島県文化財保護審議委員会委員

日本熱帯生態学会広報幹事

2) 公的機関における研究指導・授業・共同研究等

放送大学面接授業

国立民族学博物館共同研究員

総合地球環境学研究所共同研究員

京都大学東南アジア研究所学外研究協力者

(5) 調査研究

2006年7月21-24日 滋賀県草津市

2006年7月27-30日 滋賀県草津市

近江の特産植物を活用した地域活性化活動に関する現地調査 科学研究費補助金 基盤研究B 18380132「文化としての農業と地域社会における生物資源の存続に関する比較研究」

2006年8月21-23日 国立歴史民俗博物館、アダチ版画研究所

近江の特産植物の伝統的利用（小袖資料、版画彩色）に関する現地調査 科学研究費補助金 基盤研究B 18380132「文化としての農業と地域社会における生物資源の存続に関する比較研究」

2006年11月6日—12月6日 ミャンマー、シャン州

シャン人、アカ人、ワ人、タウンヨーの人らによる生態資源利用に関する現地調査 科学研究費補助金 基盤研究B(1)6402003「ミャンマー少数民族地域における生態利用と世帯戦略」

2006年12月23日—2007年1月14日 ラオス、ポンサリー県、ウドムサイ県

有用植物地図作成に向けての現地調査 総合地球環境学研究所研究プロジェクト4-2
「アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の統合的研究：1945-2005」

2007年3月26日-4月7日 ラオス、ルアンパバーン市、ヴィエンチャン市

ラオスの2都市におけるトラベリング・ミュージアムの実践 トヨタ財団平成18年度研究助成「助成金が活きるとは」(D06-J-025)「もの資料をメディアに『経験』と『思い』をわかちあう手法の開発—トラベリング・ミュージアムによる実践」

橋本達也 [助教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「博物館へのいざない」担当

共通教育科目「鹿児島探訪－考古－」担当

- 2) 専門教育
教育学部「考古学概論」担当
教育学部「博物館概論」担当
- 3) その他
博物館実習

(2) 研究活動

- 1) 著書
橋本達也・藤井大祐2007『古墳以外の墓制による古墳時代墓制の研究』鹿児島大学総合研究博物館 88p
- 2) 研究論文（査読なし）
橋本達也2006「唐仁大塚古墳考」『鹿児島考古』第40号 鹿児島県考古学会 76~91p
橋本達也2006「大隅串良 岡崎18号墳」『明日への文化財』文化財保存全国協議会30~37p
橋本達也2006「列島西南端の古墳と地域間交流－南さつま市加世田・奥山（六堂会）古墳発掘調査－」『日本考古学協会第72回総会 研究発表要旨』日本考古学協会 116~119p
橋本達也2006「列島西南端の古墳時代墓制－奥山（六堂会）古墳調査成果から－」『平成18年度 鹿児島県考古学会 研究発表会』鹿児島県考古学会 1~2p
橋本達也2006「九州における古墳時代前期の鉄製品」『前期古墳の再検討 発表要旨・資料集』九州前方後円墳研究会 27~48p
橋本達也2006「古墳時代甲冑研究の現状と課題」『第8回七隈史学会大会考古部会』七隈史学会 2~1~8p
橋本達也2006「甲冑編年研究の日韓比較－帶金式甲冑を中心として－」『歴博国際研究集会 日韓古墳時代の年代観』国立歴史民俗博物館 1~14p
橋本達也2007「九州における甲冑出土古墳の動態」『第8回古代武器研究会』古代武器研究会 1~6p
- 3) 学会発表
橋本達也2006.05.28「列島西南端の古墳と地域間交流－南さつま市加世田・奥山（六堂会）古墳発掘調査－」日本考古学協会第72回総会（東京学芸大学・小金井）
橋本達也2006.07.16「列島西南端の古墳時代墓制－奥山（六堂会）古墳調査成果から－」鹿児島県考古学会研究発表－平成18年度総会－（黎明館・鹿児島）
橋本達也2006.06.17「九州における古墳時代前期の鉄製品」第9回九州前方後円墳研究会『前期古墳の再検討』（別府大学・大分）
橋本達也2006.10.01「古墳時代甲冑研究の現状と課題」第8回七隈史学会大会 考古部会（福岡大学・福岡）
橋本達也2006.11.25「甲冑編年研究の日韓比較－帶金式甲冑を中心として－」歴博国際研究集会『日韓古墳時代の年代観』（国立歴史民俗博物館・千葉）
橋本達也2007.01.13「九州における甲冑出土古墳の動態」第8回古代武器研究会（滋賀県立大学・滋賀）

(3) 外部資金

- 競争的外部資金（代表者：間接経費を含むもの）
科学研究費補助金 若手研究A「前方後円墳築造周縁域における境界領域の構造に関する研究」平成18~20年
- 競争的外部資金（代表者：間接経費を含まないもの）
科学研究費補助金 萌芽研究「古墳以外の墓制による古墳時代墓制の多角的研究」平成14~16年
- 競争的外部資金（分担者；間接経費を含まない）
科学研究費補助金 基盤研究B「弥生・古墳時代における太平洋ルートの文物交流と地

域間関係の研究」平成18～21年 代表者・清家章（高知大学助教授）
国立歴史民俗博物館個別共同研究「マロ塚古墳を中心とした古墳時代中期武器武具の研究」平成16～19年 代表者・杉井健（熊本大学助教授）

(4) 社会貢献

- 1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等
肝付町塚崎古墳群調査指導委員会委員
- 2) 公的機関における研究指導・授業・共同研究等
国立歴史民俗博物館共同研究員
- 3) 公開講座等講師
2006.07.09 鹿児島女子短期大学「WE LOVE 鹿児島！プロジェクト」「西都原古墳群で鹿児島の古墳を考える」宮崎県立西都原考古博物館
2006.07.15 始良町歴史民俗資料館「ふるさと歴史講座」「鹿児島の古墳時代－隼人前史－」始良町中央公民館大会議室
2006.09.01 曽於郡大崎町神領10号墳発掘調査現地説明会
2007.03.04 南さつま市加世田郷土資料館「歴史講座」「奥山古墳発掘調査からみた古代史のなかの南薩」南さつま市総合保健福祉センターふれあいかせだ
- 4) 調査指導・協力
肝属郡肝付町塚崎古墳群発掘調査の指導

(5) 調査研究

- 神領10号墳発掘調査（曾於郡大崎町）8月17日～9月9日 科研費若手研究A「前方後円墳築造周縁域における境界領域の構造に関する研究」
中国陝西省西安市および遼寧省における漢代～南北朝期甲冑資料調査（中華人民共和国西安市・瀋陽市・朝陽市）7月29日～8月8日 国立歴史民俗博物館個別共同研究「マロ塚古墳を中心とした古墳時代中期武器武具の研究」

(6) 報道関係

- 寄稿：「学芸員コーナー 県内の古墳調査を紹介」『朝日新聞』鹿児島 2006.10.21
「鹿児島文化を語る 大崎・神領10号墳の武人埴輪 古墳時代史解く大隅」『南日本新聞』2006.11.03
- 記事：「冑の形象埴輪出土 大崎町・神領古墳群 鹿児島初、全国で10例」『南日本新聞』鹿児島 2006.9.01
「形象埴輪が出土 畿内と大隅半島の交流裏付け 眉庇付冑モデルは県内初」『毎日新聞』鹿児島 2006.09.02
「県内初「はにわ」出土 5世紀半ばの冑モデル」『朝日新聞』鹿児島 2006.09.02
「目鼻くっきり武人埴輪 鹿児島・大崎で出土」『朝日新聞』全国 2006.10.12
「はにわ」『朝日小学生新聞』全国2006.10.14
「大崎神領古墳の冑埴輪 武人埴輪と判明」『南日本新聞』鹿児島2006.10.12
「表情豊かな人物埴輪 大崎町・神領10号墳から出土」『毎日新聞』鹿児島 2006.10.12
「武人埴輪の頭部を公開 5世紀、鹿児島で出土」『岩手日報』2006.10.14
「塗り変わる隼人像」『朝日新聞』全国 2006.10.31
「古墳出土品を紹介」『南日本新聞』鹿児島 2006.10.19
「かごしま文化回顧録 5 考古・歴史」『南日本新聞』鹿児島 2006.12.30

本村浩之 [助教授]

(1) 教育活動

- 1) 共通教育への貢献
共通教育科目「博物館へのいざない」担当
- 2) その他
博物館実習
インターンシップ

(2) 研究活動

1) 研究論文 (査読付き)

本村浩之・原崎森・瀬能宏. 2006 (May). ヘビギンポ科クロマスク属2種*Helcogramma inclinata*と*H. nesione*の標準和名と学名, および前者の北限記録の更新と標徴に関する新知見. 魚類学雑誌, 53 (1): 106-109.

塚脇真二・荒木祐二・石川俊之・本村浩之・向井貴彦・大八木英夫・坂井健一. 2006 (June). カンボジアの大気環境～トンレサップ湖生物多様性維持機構保全の視点から～. エアロゾル研究, 21 (2):114-121.

Motomura, H. and S. Tsukawaki. 2006 (Aug.). New species of the threadfin genus *Polynemus* (Teleostei: Polynemidae) from the Mekong River basin, Vietnam, with comments on the Mekong species of *Polynemus*. The Raffles Bulletin of Zoology, 54 (2): 411-416.

Motomura, H., P. R. Last and G. K. Yearsley. 2006 (Sept.). New species of shallow water scorpionfish (Scorpaenidae: *Scorpaena*) from the central coast of Western Australia. Copeia, 2006(3): 360-369.

Motomura, H., P. R. Last and M. F. Gomon. 2006 (Sept.). A new species of the scorpionfish genus *Maxillicosta* from the southeast coast of Australia, with a redescription of *M. whitleyi* (Scorpaeniformes: Neosebastidae). Copeia, 2006(3): 445-459.

Motomura, H. and J. W. Johnson. 2006 (Sept.). Validity of the poorly known scorpionfish, *Rhinopias eschmeyeri*, with redescriptions of *R. frondosa* and *R. aphanes* (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). Copeia, 2006(3): 500-515.

Motomura, H., S. G. Poss and K.-T. Shao. 2007 (Feb.). *Scorpaena pepo*, a new species of scorpionfish (Scorpaeniformes: Scorpaenidae) from northeastern Taiwan, with a review of *S. onaria* Jordan and Snyder. Zoological Studies, 46 (1): 35-45.

2) 他の出版物 (査読なし)

本村浩之. 2006 (May). 書評「魚の形を考える」. 魚類学雑誌, 53 (1): 103-105.

Tsukawaki, S., H. Motomura, Teams EMSB and EMSB-u32. 2006 (Oct.). Preliminary results from the research missions of EMSB and EMSB-u32 programmes: "Evaluation of mechanisms sustaining the biodiversity of Lake Tonle Sap, Cambodia". Mekong Research for the People of the Mekong, Chiang Rai, Thailand. Pp. 36-42.

Motomura, H. and S. Fukumoto. 2006 (Nov.). New fish collection at the Kagoshima University Museum, Japan, with change of registration code. Ichthyological Research (Editorial Notes and Announcements), 53 (4): 441-442.

本村浩之・塚脇真二. 2007 (Jan.). 東南アジア最大の淡水湖～カンボジア・トンレサップ湖～における魚類の多様性と特異性. 鹿児島大学総合研究博物館ニュースレター, (14): 8-13.

3) 学会・シンポジウム等発表

本村浩之. 2006 (3 Sept.). 巨大湖に未知の魚を求めてPursuit of wonder fishes - Lake Tonle Sap, Cambodia -. カンボジアの人と自然-生物多様性調査と遺跡保存修復事業の現場から-. 国際シンポジウム/一般公開講演会. 金沢大学サテライト・プラザ,

- 金沢.
- 本村浩之・P. R. Last・G. K. Yearsley. 2006 (7-10 Oct.). インド洋南西部とオーストラレーシアから得られたメバル科Trachyscorpia属の2未記載種. 第39回日本魚類学会年会. 静岡県コンベンションアーツセンター・グランデ, 静岡.
- Tsukawaki, S., H. Motomura and members of teams EMSB and EMSB-u32. 2006(18-21 Oct.). Preliminary results from research missions of EMSB and EMSB-u32 programmes: "Evaluation of mechanisms sustaining the biodiversity of Lake Tonle Sap, Cambodia". International Conference on "Mekong Research for the People of the Mekong". Dusit Island Resort Hotel, Chiang Rai, Thailand.
- 本村浩之. 2006 (26 Oct.). 世界最大の熱帯低地淡水湖の魚類～カンボジア・トンレサップ湖～. 鹿児島大学水産学部付属海洋資源環境教育研究センター・セミナー. 鹿児島大学水産学部, 鹿児島.
- Motomura, H. 2006 (4-8 Dec.). Review of threadfins (Perciformes: Polynemidae) in the Philippines. Japan Society for the Promotion of Science and University of the Philippines Visayas Fish Taxonomy Workshop. Graduate and Continuing Education Building, University of the Philippines in the Visayas, Iloilo, Philippines.
- 本村浩之. 2007 (24 Feb.). 住吉池の外来魚と生物多様性保全の重要性. ふるさとを取り戻すための外来種シンポジウム. 住吉公民館, 始良.

(3) 外部資金

- 競争的外部資金（代表者）
オーストラリア連邦科学産業研究機関 研究助成金「南太平洋・南極海産魚類の分類学的研究」
- 競争的外部資金（分担者）
日本学術振興会 多国間交流事業経費「沿岸海洋学 海洋生物多様性プロジェクト」

(4) 社会貢献・学外活動

- 日本動物分類学会 編集委員
国際自然保護連合 種の保存委員（珊瑚礁性魚類分野）
日本学術振興会多国間交流事業魚類多様性チーム
国際シンポジウム「カンボジアの人と自然」実行委員
かごしま市民環境会議自然観察分科会主催「谷山幼稚園子ども会 川の生きもの観察会」
指導・解説
かごしま水族館10周年記念特別企画展 鮫世界～その魅力に迫る～イベント「生きた化石ラブカの公開解剖」特別講師

(5) 調査研究

- 南太平洋と南極海産魚類の分類学的研究および研究・標本管理のCSIRO-KAUM協力体制の構築 招待（ホバート市, オーストラリア連邦科学産業研究機関）5月21日～6月22日
日本学術振興会拠点大学事業魚類多様性ワークショップ 招待（イロイロ市, フィリピン大学）12月2日～10日
カンボジア・アンコールワット遺跡外堀とトンレサップ川の魚類調査 招待（シェムリアップ市とプノンペン市）12月15日～24日
フサカサゴ科魚類のタイプ標本調査と共同研究打合せ（ライデン市, ライデン自然史博物館）2月3日～13日
カンボジア・アンコールワット遺跡外堀の魚類調査 招待（シェムリアップ市）3月8日～21日

(6) 報道関係

- Freshwater dragonet described. Practical Fishkeeping Magazine, UK. 1 March 2006.

カンボジアの新種魚 調査尽力の金大助教授 栄誉「ツカワキイ」。北陸中日新聞朝刊。
2006年3月4日
鹿県沿岸の魚類 標本に 生息1000種以上 日本最大規模 鹿大助教授本村さん 作製ボ
ランティア募集。南日本新聞朝刊。2006年5月15日
鹿大教員がカンボジアで新属の魚を発見。鹿大ジャーナルNo. 172 Summer/2006: 14.
2006年8月11日
New freshwater threadfin. Practical Fishkeeping Magazine, UK. 31 Aug. 2006.
Stars of harbour go on show. Mosman Daily. 20 October 2006
イブニングかお 鹿児島大学で魚類分類 本村浩之さん。南日本新聞夕刊。2006年11月15日
生きた化石ラブカの公開解剖。MBCニュースナウ。南日本放送。2007年3月27日
“生きた化石”に興味 かごしま水族館 サメ「ラブカ」を公開解剖。南日本新聞朝刊。
2007年3月30日

福元しげ子 [助手]

(1) 教育活動

鹿児島大学法文学部および教育学部にて開講の博物館実習の補助
鹿児島県公立高等学校生インターンシップの受入れ補助。

(2) 研究活動

標本の修復・保存に関する研究。鹿児島大学の標本・資料に関わる研究者に関する研究。
鹿児島市の里山における動植物についての研究。
Hiroyuki Motomura and Shigeko Fukumoto(2006) Ichthyol Res. New Fish Collection at the
Kagoshima University Museum, Japan, with Change of Registration Code. 53:441-442

(3) 社会貢献

1) 調査・協力

『隨筆かごしま』158号 隨筆かごしま社 2006. 10

(4) その他

〈行事等の協力〉

- ・特別講演会「Jaws! False teeth and gums - seeking the earliest fossil vertebrates especially sharks」(4月6日)。講師: Dr. Susan Turner Curator, Queensland Museum, Australia
- ・第6回特別展「発掘!鹿児島の古墳時代」(10月17日～11月17日、10:00-17:00期間中 全日開催、入場無料) 岡崎古墳群 [鹿屋市串良町]・奥山古墳 [南さつま市加世田]・大崎町神領10号墳の出土品を中心に鹿児島の古墳について紹介。
- ・平成18年度(第8回)鹿児島大学附属図書館貴重書公開「描かれた自然 江戸の植物図」
- ・ユニヴァーシティ・ミュージアム合同展「The Wonder Box」(東京芸術大学大学美術館)
- ・第10回市民講座「貝化石からみた日本列島の縄文の海」松島義章(放送大学大学院客員教授)
- ・第3回学内コンサート「薩摩琵琶の夕べ」島津義秀(精矛神社宮司・加治木島津家第十三代当主)
- ・第11回市民講座「活火山 霧島」井村隆介(鹿児島大学理学部)

13 常設展示室 展示品目録—2006年度—

1-1 古代からのおくりもの 一鹿大に眠る遺跡

パネル

- ・「古代からのおくりものー鹿大に眠る遺跡ー」
- ・「鹿児島大学キャンパスの発掘調査」
- ・「理学部2号館増築（釣田第8）地点の発掘調査
- ・「成川式土器と南九州の古墳時代」
- ・「鹿児島大学構内遺跡年表」

ハンズ・オン展示

- ・土器 成川式 鉢・壺片 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・黒曜石（3点）・サヌカイト（安山岩）（4点）・碧玉（1点）

露出展示

- ・木 古墳時代 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・木 古墳時代 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・土層剥ぎ取り標本 繩文時代草創期（11000年前）の桜ヶ丘キャンパスに降り積もった火山灰
- ・土層剥ぎ取り標本 郡元キャンパス内を流れていた川の堆積状況 ベンチャーラボラトリー地点
- ・繩文時代草創期の落とし穴 レプリカ（断面） 桜ヶ丘：保健学科棟地点出土
- ・黒曜岩 obsidian 産出地 鹿児島市三船

展示ケース1

旧石器時代～繩文時代草創期の石器（1万1000年以前）

- ・石器：細石刃：黒曜石片（計5点） 桜ヶ丘：MRI-CT（95-6）地点出土
- ・石器：石鎌 桜ヶ丘：MRI-CT（95-6）地点出土

繩文時代の遺物 石器

- ・黒曜石 剥片石器 桜ヶ丘：受水槽地点出土
- ・黒曜石 郡元：中央図書館増築（92-4）地点出土
- ・石器：石鎌 郡元：工学部講義棟（97-1）地点出土 4点 総合研究棟地点出土 2点
　　桜ヶ丘：難治性ウィルス棟（87-3）地点出土 2点
- ・石器：石製垂飾品 郡元：工学部講義棟（97-1）地点出土
- ・石器：石匙 郡元：工学部講義棟（97-1）地点出土 2点

繩文時代早期の土器（9500年前頃）

- ・土器：縄文：円筒 桜ヶ丘：受水槽（92-2）地点出土
- ・土器：縄文：角筒 桜ヶ丘：受水槽（92-2）地点出土
- ・土器：縄文：角筒 桜ヶ丘：難治性ウィルス増築地点出土
- ・土器：縄文：円筒 桜ヶ丘：MRI-CT（95-6）地点出土

繩文時代中期の土器等

- ・土器：縄文 郡元：工学部情報工学科棟（H-11・12）地点出土 6点
- ・種子：マツ 郡元：工学部講義棟（97-1）地点出土 6点

繩文時代後期の土器

- ・土器：縄文 郡元：地域共同センター（93-5）地点出土
- ・土器：縄文 郡元：工学部情報工学科棟（H-11・12）地点出土 3点
- ・土器：縄文：指宿式 唐湊：学生寮地点出土 2点
- ・土器：縄文：松山式 郡元：工学部情報工学科棟（H-11・12）地点出土

縄文時代晩期の土器

- ・土器：縄文：突帯文 郡元：教育学部体育館（釣田6・県教委）地点出土

弥生時代の土器・石器

- ・土器：弥生 郡元：地域共同センター（93-5）地点出土
- ・土器：弥生 郡元：教育学部教育実践センター（93-4）地点出土
- ・土器：弥生：粘土帶 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・石器：石包丁 郡元：理学部2号館増築地点出土・郡元：附小プールNo12トレーニング池出土・
郡元：VBL棟地点出土
- ・石器：紡錘車 郡元：地域共同センター（93-5）地点出土
- ・石器：紡錘車 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・石器：磨製石鎌 郡元：共同溝（2001-1）地点出土
- ・石器：打製石斧 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・石器：扁平両刃石斧 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・石製品：管玉 桜ヶ丘：難治性ウイルス棟地点出土
- ・石製品：小玉 郡元：総合教育研究棟地点出土（計2点）
- ・石器：敲石 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・石器：擂石 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・石器：砥石 郡元：工学部情報工学科棟（H-11・12）地点出土

展示ケース 2

古墳時代の土器

- ・土器：成川式：壺 郡元：理学部2号館増築地点出土 [7点]
- ・土器：成川式：無頸壺 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・土器：成川式：土師器系壺 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・土器：成川式：台付鉢 郡元：理学部2号館増築地点出土 [2点]
- ・土器：成川式：鉢 郡元：理学部2号館増築地点出土 [2点]
- ・土器：成川式：台付鉢または甕 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・土器：成川式：甕 郡元：理学部2号館増築地点出土 [4点]
- ・土器：成川式：甕 郡元：理学部2号館増築地点出土

展示ケース 3

- ・土器：成川式：壺 郡元：理学部2号館増築地点出土

展示ケース 4

古墳時代食膳道具の土器

- ・土器：成川式：埴 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・土器：成川式：燧 郡元：理学部2号館増築地点出土 [3点]
- ・土器：成川式：無頸壺 郡元：理学部2号館増築地点出土 [2点]
- ・土器：成川式：埴 郡元：理学部2号館増築地点出土 [5点]
- ・土器：成川式：鉢 郡元：理学部2号館増築地点出土 [4点]
- ・土器：成川式：高杯 郡元：理学部2号館増築地点出土 [3点]
- ・土器：成川式：皿 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・土器：成川式：高杯（鉢） 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・土器：成川式：台付鉢 郡元：理学部2号館増築地点出土

古墳時代の祭り道具 祭り用ミニチュア土器 軽石加工品 勾玉・丸玉

- ・土器：成川式：ミニチュア壺 郡元：理学部2号館増築地点出土 [8点]
- ・土器：成川式：ミニチュア土器 郡元：理学部2号館増築地点出土 [10点]
- ・土器：成川式：ミニチュア埴 郡元：理学部2号館増築地点出土 [3点]
- ・土器：成川式：ミニチュア甕 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・石器：砥石 郡元：理学部3号館（I・J9・10区）地点出土

- ・石製品：軽石加工品 郡元：中央図書館増築（92-4）地点出土
- ・石製品：軽石加工品 郡元：地域共同センター（93-5）地点出土
- ・石製品：軽石加工品 郡元：防水水槽（96-1）地点出土
- ・石製品：軽石加工品 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・石製品：軽石加工品 郡元：地域共同センター（93-5）地点出土
- ・石器：紡錘車 郡元：総合教育研究棟（99-1）地点出土
- ・石器：紡錘車 郡元：附中運動場16トレンチ出土
- ・石器：勾玉 郡元：総合教育研究棟地点出土
- ・土製品：勾玉 郡元：総合教育研究棟地点出土
- ・土製品：勾玉 郡元：出土地不明
- ・土製品：勾玉 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・石器：勾玉 郡元：水町地点出土
- ・土製品：土玉 理学部2号館増築地点出土
- ・石製品：有孔石製品 郡元：総合教育研究棟地点出土
- ・土製品：土玉 郡元：総合教育研究棟地点出土

須恵器

- ・土器：須恵器：杯蓋 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・土器：須恵器：杯身 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・土器：須恵器：器台 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・土器：須恵器：甕 郡元：理学部2号館増築地点出土 [4点]
- ・土器：須恵器：礎 郡元：理学部2号館増築地点出土
- ・土器：須恵器：壺 郡元：理学部2号館増築地点出土

展示ケース 5

古代・中世の土器（平安～鎌倉時代）

- ・土器：黒色土器：碗 郡元：総合情報センター（電子計算器室・釣田9地点）地点出土
- ・土器：土師器：皿 郡元：電子計算室（G-H-9・10, 87-2）地点出土
- ・土器：土師器：碗 郡元：工学部情報工学科棟（H-11・12）地点出土
- ・土器：土師器：杯 郡元：稻盛会館地点出土
- ・土器：土師器：碗 郡元：工学部情報工学科棟（H-11・12）地点出土
- ・土器：土師器：碗 郡元：附小ケーブル立会No4（88-I）地点出土
- ・土器：土師器：杯（墨書） 郡元：附小プールNo17トレンチ出土
- ・土器：須恵器：碗 郡元：電子計算室（G-H-9・10, 87-2）地点出土
- ・土器：須恵器：碗 郡元：稻盛会館地点出土

青磁

- ・磁器：青磁：鉢 郡元：工学部情報工学科棟（H-11・12）地点出土 [2点]
- ・磁器：青磁：鉢 郡元：水町地点出土
- ・磁器：青磁：皿 郡元：水町地点出土
- ・磁器：青磁：碗 郡元：工学部情報工学科棟（H-11・12）地点出土 [3点]
- ・磁器：青磁：碗 郡元：電子計算室（G-H-9・10, 87-2）地点出土 [2点]
- ・磁器：青磁：碗 郡元：教育学部音楽美術棟（92-1）地点出土
- ・磁器：青磁：碗 郡元：電子計算室（G-H-9・10, 87-2）地点出土

白磁

- ・磁器：白磁：碗 郡元：工学部情報工学科棟（H-11・12）地点出土 [2点]
- ・磁器：白磁：碗 郡元：稻盛会館地点出土
- ・磁器：白磁：碗 郡元：連大農学研究科地点出土
- ・磁器：白磁：碗 郡元：教育学部音楽美術棟（92-1）地点出土
- ・磁器：白磁：碗 郡元：連大農学研究科地点出土
- ・磁器：白磁：碗 郡元：連大農学研究科地点出土
- ・磁器：白磁：碗 郡元：教育学部福利厚生施設地点出土

近世の遺物（江戸時代）

江戸時代の磁器

- ・磁器：染付：皿 郡元：工学部情報工学科棟（H-11・12）地点出土 [2点]
- ・磁器：染付：碗 郡元：工学部情報工学科棟（H-11・12）地点出土 [2点]
- ・磁器：染付：蓋付鉢 郡元：教育学部教育実践センター（93-4）地点出土
- ・磁器：染付：筒形碗 郡元：教育学部教育実践センター（93-4）地点出土

江戸時代の陶器

- ・陶器：皿 郡元：教育学部教育実践センター（93-4）地点出土
- ・陶器：碗 唐湊：学生寮地点出土
- ・陶器：小皿 郡元：稻盛会館地点出土
- ・陶器：碗 唐湊：学生寮地点出土
- ・陶器：皿 郡元：厩舎試掘地点出土
- ・銅製品：キセル：吹口 郡元：連大農学研究科地点出土
- ・銅製品：キセル：雁首 郡元：連大農学研究科地点出土
- ・古銭：永暦通宝 郡元：中央図書館増築（92-4）地点出土
- ・古銭：寛永通宝 郡元：水町地点出土
- ・古銭：寛永通宝 郡元：教育学部音楽美術棟地点出土
- ・古銭：寛永通宝 郡元：教育学部福利厚生施設地点出土
- ・古銭：寛永通宝 郡元：連大農学研究科地点出土

土製玩具

- ・土製品：泥メンコ 郡元：連大農学研究科地点出土 [15点]
- ・土製品：泥メンコ 郡元：水町地点出土 [2点]

犬形土製品

- ・土製品：犬形 郡元：稻盛会館地点出土

鳩笛

- ・土製品：玩具 郡元：連大農学研究科地点出土 [3点]
- ・焼締陶器：擂鉢 郡元：工学部情報工学科棟（H-11・12）地点出土
- ・土器：焙烙 郡元：厩舎試掘地点出土

近世の磁器

- ・磁器：染付（型紙摺り）：皿 郡元：水町地点出土
- ・磁器：染付（形紙摺り）：茶碗 郡元：教育学部教育実践センター（93-4）地点出土

サイコロ

- ・サイコロ 郡元：運動場（93-6）地点出土

近代以降の遺物 明治時代以降

銃弾 近代 弾丸と薬莢

- ・鉛製銃弾 郡元：総合情報センター（95-5）地点出土
- ・機銃銃弾 郡元：教育学部試掘調査（85-4）地点出土
- ・機銃銃弾 郡元：水町地点出土
- ・薬莢 郡元：附属養護学校日常生活訓練施設（93-3）地点出土
- ・薬莢 郡元：稻盛会館地点出土

1－2 機器でたどる鹿大の教育研究史

パネル

- ・「機器でたどる鹿大の教育研究史」
- ・「鹿児島大学沿革概要図」

写真

- ・鹿児島高等農林学校 正面
- ・鹿児島高等農林学校 講堂正面
- ・第七高等学校 校舎風景

地図

- ・鹿児島高等農林学校 建物配置図（昭和11～12年）

ハンズ・オン展示

- ・電動計算器 1956年製造 オリベッティ社（伊） Calculator （農学部）
- ・顕微鏡 1920年代 Ernst Leitz Wetzlar社（独） （第七高等学校）
- ・顕微鏡（鹿児島高等農林学校）
- ・手回し計算器 1940年代（理学部）
- ・縮尺物差（鹿児島高等農林学校）
- ・英文タイプライター Rheinmetall社（農学部）

展示ケース 6

- ・タムソン氏反射検流計 1911年以前製造 島津製作所（株）京都 Thomson's reflecting galvanometer
- ・六分儀 1916年製造 C.Platz社 ドイツ Sextant
- ・カメラ 1936年製造 六桜社 東京 Camera
- ・クロノメーター 製造年不詳 Morris Tobias社 Chronometer
- ・手回し計算機 1940年代製造 タイガー計算器（株） Mechanical calculator
- ・化学天秤 大正時代製造 守谷製衡所（東京） Chemical balance
- ・顕微鏡 1902年 Ernst Leitz Wetzlar社（独） Microscope
- ・写真「顕微鏡を使った観察をする学生たち」 第16期鹿児島高等農林学校得業アルバム「紫原」より
- ・得業論文（鹿児島高等農林学校） 実習ノート 3点 Graduation thesis
- ・動物組織標本 Zoological tissue specimen

展示ケース 7

- ・双眼顕微鏡 1921年製造 Ernst Leitz Wetzlar社（独） Binocular microscope
- ・写真「岡島先生」第16期鹿児島高等農林学校得業アルバム「紫原」より

2－1 地球のめぐみ

パネル

- ・「地球のめぐみ」
- ・「ストロマトライト 縞状鉄鋼層」
- ・「海底の熱水のめぐみと特殊な生物群」
- ・「北海道の金鉱床」
- ・「海底に堆積した金鉱床」
- ・「2330万年以前にできた金鉱床」
- ・「鹿児島の金鉱山」
- ・「地質鉱床模式断面図」（本鉱床、山神鉱床）

露出展示

- ・ストロマトライト Stromatolite
先カンブリア時代 始生代（約27.6億年前） ツンビアナ層 オーストラリア：ピルバラ地方
- ・干裂と塩の印象化石 Impression fossils of mud crack and salt 始生代（約30億年前） オーストラリア
- ・初期の縞状鉄鉱層 Banded iron formation 先カンブリア時代 始生代（約34.6億年前） タワーズ層
オーストラリア：ピルバラ地方

展示ケース8

- ・シロウリガイの化石 *Calyptogena* sp. 新第三紀 鮮新世 三浦層群池子層 神奈川県逗子市池子地区
- ・ナンヨウシロウリガイ *Calyptogena nankaiensis* 現世 沖縄舟状海盆 伊平屋海嶺北部海丘の水深1025m付近 塚原潤三氏所蔵
- ・シロウリガイ *Calyptogena soyoae* 現生 相模湾初島沖 水深1100m付近 塚原潤三氏所蔵
- ・エスカルピア *Escarapia* sp. 現世 喜界島沖の1500m付近 塚原潤三氏所蔵
- ・サツマハオリムシ *Lamellibrachia satsuma* Miura, Tsukahara & Hashimoto 現世 鹿児島湾奥部福山町沖の水深80m付近 塚原潤三氏所蔵

大型展示台

日本各地の金鉱石

北海道	上国・種川・寿都・大金・静狩・国富・稻倉石・大江・轟・余市・中ノ沢・新大豊・豊宏・豊羽・手稻・本庫・珊瑚・北隆・下川・滝之上・音羽・沼の上・生田原・計呂地円山・鴻之舞・隆尾・北ノ王・常呂・北見・阿寒・春富・根室・勢多・光竜・千歳・白老・南白老・洞爺財部・日昇・蔭ノ沢・幌別・八雲
本州	八光・津軽・恐山・温川・小坂・深沢・糸迦内・花岡・松峯・揚ノ沢・阿仁・古遠部・大葛・尾去沢・相内・小真木・花輪・大峰・矢越・興北・大谷・鹿折・真野・小山・大張・八谷・根羽沢・佐渡・西三川・高玉・秩父・甲武信・大仁・須崎・湯ヶ島・河津・繩地・天城・持越・清越・土肥・神岡・富来・尾小屋津具・紀州・生野・大身谷・坂越大泊・竹野・中瀬・旭日・日笠・甲山・大森・都茂
四国	別子
九州	宇佐・野失・馬上・猪伏・引治・鯛生・星野・波佐見・松尾・布計・山ヶ野・東山ヶ野・大良・入来・串木野・湯之浦・豊城・助代・石塔庵・神殿・東・鹿籠・栗ヶ野・見初・春日・赤石・岩戸・生見・喜入・花籠・山田・島泊・浜尻・御岳・王ノ山・菱刈・大口・梅溪・久米島

展示ケース9

- ・金銀鉱石 gold-silver ore 串木野鉱山 (Kushikino mine) いちき串木野市
- ・金銀鉱石 gold-silver ore 菱刈鉱山 (Hishikari mine) 菱刈町
- ・金銀鉱石 gold-silver ore 大口鉱山 (Okuchi mine) 大口市
- ・金銀鉱石 gold-silver ore 布計鉱山 (Fuke mine) 大口市

展示ケース10

- ・高品位金銀鉱石 high-grade gold-silver ore 菱刈鉱山 (Hishikari mine) 菱刈町
- ・金鉱石 gold ore 春日鉱山 (Kasuga mine) 枕崎市
- ・金鉱石 gold ore 岩戸鉱山 (Iwato mine) 枕崎市
- ・金鉱石 gold ore 赤石鉱山 (Akeshi mine) 南九州市知覧町
- ・自然金 native gold 赤石鉱山 (Akeshi mine) 南九州市知覧町

2-2 鹿児島の海と生命の歴史

パネル

- ・「鹿児島の海と生命の歴史」・「南九州～琉球列島北部の海成層」・「鹿児島の地層と地質図」
- ・「第四紀海成層 最終氷期と縄文海進」・「縄文海進と平野の出現」
- ・「鹿児島市の沖積層のボーリングデーター」・「海水面の変動曲線」
- ・「縄文海進と平野の出現」・「鹿児島の火山灰」

展示ケース11

- ・地図 新生代古第三紀の地層 Cenozoic, Paleogene formations
- ・ハマグリの一種 *Meretrix cf. pseudomeretrix* Nagao 古第三紀漸新世？ 熊毛層群 鹿児島県熊毛郡南種町
- ・環形動物（深海）Annelida 古第三紀漸新世？ 熊毛層群 鹿児島県熊毛郡屋久島
- ・巻貝の一種 *Colpospira (Acutospira) tashiroi* Kotaka 古第三紀始新世中期 本渡層群教良木層 熊本県天

草市牛島

- ・巻貝の一種 *Gastropoda conchs* 古第三紀始新世中期 本渡層群教良木層 熊本県天草市牛深町下須島
- ・環形動物 *Terebellina?* sp. 中生代白亜紀後期 四万十累層群 鹿児島県南さつま市坊津町栗ヶ野
- ・イノセラムス *Inoceramus japonicus* Nagao & Matsumoto 中生代白亜紀後期 姫浦層群 熊本県上天草市姫戸町姫戸小島
- ・カキの一種 *Ostrea kombo* Hayasaka & Hayasaka 中生代白亜紀中期 御所浦層群 鹿児島県薩摩川内市下甑島中山
- ・アンモナイト *Scalarites* sp. 中生代白亜紀後期 四万十累層群川辺層郡金峰層 鹿児島県南九州市川辺町野間
- ・アンモナイト *Muniericeras?* sp. 中生代白亜紀後期 四万十累層群川辺層郡金峰層 鹿児島県南九州市川辺町野間
- ・三角貝（トリゴニア） *Pterotrigonia (Pterotrigonia) hokkaidoana* (Yehara) 中生代白亜紀中期 御所浦層群 鹿児島県長島町獅子島立石
- ・イノセラムス *Inoceramus amakusensis* Nagano & Matsumoto 中生代白亜紀中期 御所浦層群 鹿児島県長島町獅子島立石
- ・アンモナイト *Gaudryceras* sp. 中生代白亜紀後期 姫浦層群 熊本県天草市御所浦町牧島
- ・ネレイテス（生痕化石） *Nereites cf. tosaensis* Katto 古第三紀漸新世 熊毛層群 鹿児島県熊毛郡南種子町門倉
- ・パレオディクチオン（深海） *Paleodictyon cf. majus* Meneghini 古第三紀漸新世？日南層群 宮崎県日南市猪崎
- ・深海の生き物の「這い跡」の化石 Trace fossils of deep-sea animals A&C ヘルミントイダ (Helminthoida)
B パレオディクチオン (Paleodictyon) D スパイロフィクス (Spirophycus) 古第三紀漸新世 宮崎県日南市大堂津
- ・地図 新生代新第三紀の地層 Cenozoic Neogene formations
- ・カキ礁をつくるマガキ *Crassostrea gigas* (Thunberg) oyster bank 新第三紀中新世中期 茎永層群河内層 鹿児島県熊毛郡南種子町河内
- ・巻貝の密集した岩礁 gastropods included in siltstone 新第三紀中新世中期 茎永層群 鹿児島県熊毛郡種子島
- ・オキシジミガイ *Cyclina sinensis* (Gmelin) 新第三紀中新世中期 茎永層群河内層 鹿児島県熊毛郡南種子町下中
- ・フスマガイ *Clementia (Clementia) vatheleti* Mabille 新第三紀中新世中期 茎永層群大崎層 鹿児島県熊毛郡南種子町吉信崎
- ・センニンガイの一種 *Telescopium* sp. 新第三紀中新世中期 茎永層群河内層 鹿児島県熊毛郡南種子町水牛
- ・ヘタナリ *Cerithidea (Cerithiopsis) cingulata* (Gmelin) 新第三紀中新世中期 茎永層群河内層 鹿児島県熊毛郡南種子町菅原
- ・ウミニナの一種 *Batillaria* sp. 新第三紀中新世中期 茎永層群河内層 鹿児島県熊毛郡南種子町水牛
- ・ビカリア（巻貝） *Vicarya (Shoshoiroia) callosa japonica* Yabe & Hatai 新第三紀中新世中期 茎永層群河内層 鹿児島県熊毛郡中種子町犬城
- ・シジミガイの一種 *Cyclina* sp. 新第三紀中新世中期 茎永層群河内層 鹿児島県熊毛郡南種子町水牛
- ・タイラギの一種 *Atrina* sp. 新第三紀中新世中期 茎永層群大崎層 鹿児島県熊毛郡南種子町吉信崎

展示ケース12

- ・「形之山化石群 (Katanoyama fossil fauna)」
- ・図表 西の表市「形之山バス停留所」付近における形之山部層の柱状図（大塚、桑山2000より）
- ・化石・魚類 fish 第四紀更新世前期 増田層形之山部層（約130万年前）鹿児島県西之表市住吉形之山
- ・化石・魚類 fish 第四紀更新世前期 増田層形之山部層 鹿児島県西之表市住吉形之山
- ・ノコギリガザミ（ワタリガニ科） *Scylla serrata* (Forskal) 第四紀更新世前期 増田層形之山部層 鹿児島県西之表市住吉形之山（種子島開発総合センター所蔵）
- ・アミメノコギリガザミ *Scylla oceanica* 現世（那覇市公設市場にて購入 鈴木廣志氏所蔵）

展示ケース13

- ・図 新生代第四紀の地層 Cenozoic Quaternary
- ・クジラの骨 bone of whale 第四紀更新世前期 増田層 鹿児島県熊毛郡南種子町上方
- ・シモナカハタイアカガイ *Anadara (Hataiarca) shimonakaensis* Hayasaka 新第三紀中新世中期 茎永層

群河内層 鹿児島県熊毛郡南種子町下中

- ・トウキヨウホタテ *Mizuhopecten tokyoensis tokyoensis* (Tokunaga) 第四紀更新世前期 増田層 鹿児島県熊毛郡南種子町上中
- ・カメガイ（腕足類）の一種 *Pictothyris tanegashimaensis* Hayasaka 第四紀更新世前期 増田層 鹿児島県熊毛郡南種子町上方
- ・ヒワダブキタイラギガイ *Atrina (Servatrina) lamellata* Habe 第四紀更新世前期 増田層 鹿児島県熊毛郡南種子町美座
- ・ミドリイシ（サンゴ類）の一種 *Acropora* sp. 第四紀更新世前期 増田層 鹿児島熊毛郡南種子町久津
- ・リソサムニウム（紅藻類）の一種 *Lithothamnium* sp. 第四紀更新世前期 増田層 鹿児島熊毛郡南種子町島間
- ・アズマニシキ *Chlamys (Azumapecten) ferreri nipponensis* (Kuroda) 第四紀更新世前期 増田層 鹿児島県熊毛郡中種子町屋久津
- ・ハナツメガイ *Glossaulax reiniana* (Dunker) 新第三紀鮮新世後期 宮崎層群高鍋層 宮崎県高鍋町
- ・ゾウゲツノガイの仲間 *Dentaliidae* gen. sp. indet 新第三紀鮮新世後期 宮崎層群高鍋層 宮崎県新富町
- ・シャクジクガイの仲間 *Micantapex matsumotoi* Shuto 新第三紀鮮新世後期 宮崎層群高鍋層 宮崎県高鍋町
- ・コロモガイの仲間 *Trigonostoma (Scalptia) kurodai* Makiyama 新第三紀鮮新世後期 宮崎層群高鍋層 宮崎県高鍋町
- ・フナケイムシ *Teredo* sp. 新第三紀中新世 宮崎県東諸県郡国富町 (村田惟義・マサ子氏採集)
- ・スカシカシパンウニ *Astriclypeus* cf. *manni* Verrill 新第三紀中新世後期 宮崎層群下部 宮崎市 双石山
- ・ナナイロエビス *Calliostoma iris* (Kuroda & Habe) 新第三紀鮮新世後期 宮崎層群高鍋層 宮崎県高鍋町
- ・ハナキサゴ *Camitia* cf. *rotellina* (Gould) 新第三紀鮮新世後期 宮崎層群高鍋層 宮崎県高鍋町
- ・チマキボラの仲間 *Thatcheria gradata* (Yokoyama) 新第三紀鮮新世後期 宮崎層群高鍋層 宮崎県高鍋町
- ・コンゴウボラ *Cancellaria (Merica) laticosta* Loebbecke 新第三紀鮮新世後期 宮崎層群高鍋層 宮崎県高鍋町
- ・カラスノマクラ *Modiolous* cf. *hanleyi* (Dunker) 新第三紀鮮新世前期 宮崎層群妻層 宮崎県児湯郡川南町
- ・カニ類の一種 *Malacostraca* 新第三紀鮮新世前期 宮崎層群綾層相当層 宮崎県宮崎郡清武町尾平
- ・カシパンウニの仲間 *Echinoidea* 新第三紀鮮新世前期 宮崎層群綾層 宮崎県高岡町川原田
- ・タコノマクラ *Clypeaster* cf. *japonicus* Doederlein 第四紀更新世前期 増田層 鹿児島県熊毛郡南種子町上方
- ・ヤツシロガイの一種 *Tonna* sp. 第四紀更新世中期 吉田貝層 (約35万年前) 鹿児島市西佐多町西中
- ・フジツボ類 barnacles 第四紀更新世中期 吉田貝層 鹿児島市西佐多町西中
- ・オパキュウリナ砂岩（外礁） *Operculina sandstone* 第四紀更新世 鹿児島県大島郡徳之島町
- ・カバミナシ *Conus (Rhizoconus) vexillum vexillum* Gmelin 第四紀更新世中期 吉田貝層 鹿児島市西佐多町鵜の木
- ・オニニシ *Hemifusus crassicaudus* (Philippi) 第四紀更新世中期 吉田貝層 鹿児島市西佐多町鵜の木
- ・イタヤガイ *Pecten albicans* (Schroeter) 第四紀更新世中期 吉田貝層 鹿児島市西佐多町西中
- ・カササガイ類の一種 *Patellogastropoda* 第四紀更新世中期 吉田貝層 鹿児島市西佐多町桑の丸
- ・サメの歯 teeth of *Carcharodon carcharias* (Linnaeus) 第四紀更新世中期 吉田貝層 鹿児島市西佐多町桑の丸
- ・オミナエシダカラ *Cypraea (Erosaria) boivinii* Kiener 第四紀更新世中期 吉田貝層 鹿児島市西佐多町桑の丸
- ・有孔虫砂岩 foraminiferal sandstone 第四紀更新世中期 琉球層群 鹿児島県大島郡伊仙町小島（徳之島鉱山）
- ・スダレガイ *Paphia lischkei* Fischer-Piette & Metiver 第四紀更新世中期 花倉層 鹿児島県吉田町花倉
- ・ヒオウギ *Mimachlamys nobilis* (Reeve) 第四紀更新世中期 河頭（花倉）層 鹿児島市犬迫町河頭貝殻坂
- ・ヒラタサルボウ *Scapharca hiratai* (Habe) 第四紀更新世中期 河頭（花倉）層 鹿児島市犬迫町河頭貝殻坂
- ・カガミガイ *Phacosoma japonicum* (Reeve) 第四紀更新世中期 花倉層 鹿児島市吉田町花倉
- ・魚類 fish 第四紀更新世中期 国分層群蒲生層 鹿児島県姶良郡姶良町大山
- ・イタボガキ *Ostrea denselamellosa* Lischke 第四紀更新世中期 河頭（花倉）層 鹿児島市犬迫町河頭貝殻坂
- ・ウミタケ *Barea (Umitakea) dilatata* (Souleyet) 第四紀更新世中期 河頭（花倉）層 鹿児島市犬迫町河頭貝殻坂
- ・キイヨフバイ *Zeuxis dorsatus* (Roeding) 第四紀更新世中期 河頭（花倉）層 鹿児島市犬迫町河頭貝殻坂
- ・ムシロガイ *Niotha livescens* (Philippi) 第四紀更新世中期 河頭（花倉）層 鹿児島市犬迫町河頭貝殻坂
- ・キサゴの仲間 *Lunella granulata* (Gmelin) 第四紀更新世中期 河頭（花倉）層 鹿児島市犬迫町河頭貝殻坂

展示ケース14

- ・鹿児島の古地図
- ・「最終間氷期（約12.5万年前）の鹿児島の古地図」
- ・マガキ *Crassostrea gigas* (Thunberg) 第四紀更新世後期 城山層 鹿児島市吉野町琉球人松
- ・ハイガイ *Tegillarca granosa* (Linnaeus) 第四紀更新世後期 城山層 鹿児島市吉野町琉球人松
- ・アカニシ *Rapana venosa* (Valenciennes) 第四紀更新世後期 城山層 鹿児島市吉野町琉球人松
- ・ベンケイガイ *Glycymeris (Veletuceta) albolineata* (Lischke) 第四紀更新世後期 城山層 鹿児島市吉野町琉球人松
- ・イシガキ *Dimya filipina* Bartsch 第四紀更新世後期 城山層 鹿児島市吉野町琉球人松
- ・ウミギク *Spondylus barbatus* Reeve 第四紀完新世 燐島貝層 鹿児島市新島町
- ・コウボネガイ *Meiocardia samarangiae* Bernard et al. 第四紀完新世 燐島貝層 鹿児島市新島町
- ・カブトボラ *Caleodea leucodoma* (Dall) 第四紀完新世 燐島貝層 鹿児島市新島町
- ・ヤツシロガイ *Tonna luteostoma* (Kuester) 第四紀完新世 燐島貝層 鹿児島市新島町
- ・マキアゲエビス *Turcica corrensis* Pease 第四紀完新世 燐島貝層 鹿児島市新島町
- ・クマサカガイ *Xenophora pollidula* 第四紀完新世 燐島貝層 鹿児島市新島町
- ・サンゴ類の一種 coral 第四紀完新世(約6000年前) 鹿児島県霧島市隼人町三島

展示台

- ・鹿児島市中央部の沖積層基底面の等高線の模型
- ・モクハチアオイ *Lumulicardia retusa* (Linnaeus) 第四紀完新世（約6000年～2000年前）鹿児島市沖積層
- ・書籍 『写真集 地球からのメッセージ 鹿児島』鹿児島県地学会編集 1997年
- ・火山灰、火碎流堆積物 4点（アカホヤ火山灰 桜島薩摩火山灰 入戸火碎流 阿多火碎流）

鹿児島大学総合研究博物館 第6回 特別展

発掘！鹿児島の古墳時代

Archaeological remains of Kagoshima: New aspects for 5th century culture

10月17日(火)～11月17日(金) 10:00～17:00

場所：郡元キャンパス 総合教育研究棟2F プレゼンテーションホール

入場無料 期間中全日開催



鹿児島大学総合研究博物館で調査を進めている岡崎古墳群〔鹿屋市串良町〕・
神領10号墳〔曾於郡大崎町〕・奥山（六堂会）古墳〔南さつま市加世田〕の
発掘出土品を中心に鹿児島の古墳とその発掘調査の進め方や室内作業について
紹介します。

鹿児島大学総合研究博物館

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 tel.099-285-8141

<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿児島大学総合研究博物館

●第11回研究交流会●

●講師 桂 雄三

(文化庁文化財部記念物課主任)



●とき 2006年6月3日(土) 13:30-15:30

●ところ
鹿児島大学郡元キャンパス
総合教育研究棟 2F 203室



●問合せ 鹿児島大学総合研究博物館 (担当:大木)
〒890-0065鹿児島市郡元1-21-30
TEL 099-285-8141 FAX 099-285-7267 <http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp>

天然記念物 という文化財

入場無料
どなたでも
おこしください

第6回 自然体験ツアー

鹿児島湾海藻ウォッチング

一水の中のゆたかな森へー

2006年5月13日(土)13:00-15:00

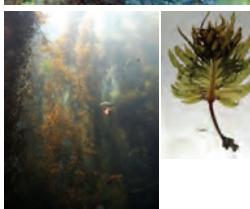
桜島ビジターセンター集合

第6回 公開講座

作ってみよう! 海藻おしば

2006年5月20日(土)13:30-15:30

鹿児島大学水産学部集合



講師:寺田竜太

(鹿児島大学水産学部)

人数: 20名 小学生からおとなまで
料金: 無料
事前に参加申込みが必要です。
おしゃれ裏面をごらんください。

鹿児島大学総合研究博物館

〒890-0065鹿児島市郡元1-21-30 (担当 審査会)
TEL 099-285-8141 FAX 099-285-7267
www.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学総合研究博物館

第10回 市民講座

貝化石からみた

日本列島の縄文の海

講師 松島義章(放送大学大学院客員教授)

現在、日本列島の沖積平野のほとんどは、およそ6000年前の
縄文海進の時代には、浅い海でした。貝化石からわかる、当時の
人々の生活と海岸の風景に思いをはせてはいかがでしょうか。

とき: 11月11日(土) 14:30 - 16:00

ところ: 鹿児島大学郡元キャンパス
総合教育研究棟 2F 203室

第3回学内コンサート

薩摩琵琶の夕べ

島津義秀氏(精矛神社宮司)

薩摩武士道の精神の継承を志し、野太流自頼流の修行に励んでいる
加治木島津家第十三代当主

日 時: 平成18年11月11日(土)
16:15~17:00

場 所: 郡元キャンパス
総合教育研究棟エントランスホール

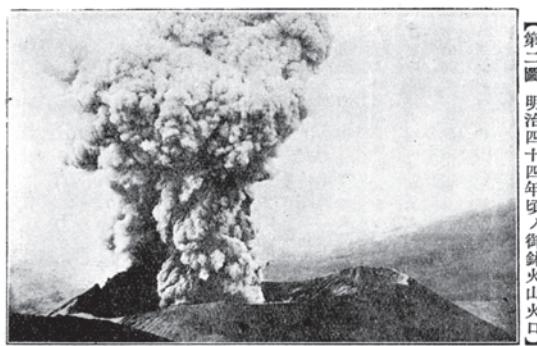




鹿児島大学総合研究博物館

第11回 市民講座「活火山 霧島」

講 師：井 村 隆 介（鹿児島大学理学部助教授）
と き：12月16日（土）13:30 - 15:30
と こ ろ：鹿児島大学総合教育研究棟 2F 203号教室



【第二圖 明治四十四年頃ノ御鉢火山火口】

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館
TEL : 099-285-8141 / FAX : 099-285-7267 常設展示室 TEL : 099-285-7259
mail : museum@kaum.kagoshima-u.ac.jp 担当：大木

鹿児島大学中央図書館ロビー展「写真や絵でみる明治・大正期の霧島火山の噴火」
と き：12月15日（金）- 12月22日（金）
と こ ろ：鹿児島大学中央図書館1階ロビー

鹿児島大学総合研究博物館年報
Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.6
2006

鹿児島大学総合研究博物館 The Kagoshima University Museum
〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 1-21-30, Kohrimoto, Kagoshima 890-0065, Japan
Printed in Japan
2008.3.31